# 大学生の生活環境と将来設計
# 調査報告書

竹田　美知（神戸松蔭女子学院大学）
正保　正恵（福山市立大学）
山下　美紀（ノートルダム清心女子大学）
大石　美佳（鎌倉女子大学）

# 目次

はじめに
第1章　調査研究の目的と枠組み
第2章　女子大学生調査
　　１．調査の概要
　　２．調査結果
第3章　公立共学大学生調査
　　１．調査の概要
　　２．調査結果
第4章　研究成果と家族生活教育
　　１．報告会の目的・方法
　　２．報告会の概要
　　（２）女子大学生の家族資本と「生きづらさ」
　　（３）女子大学生の家族資本とキャリアデザイン
　　（４）大学生の奨学金返済不安にかかわる要因分析
　　（５）女子大学生と将来設計
　　（６）リアクションペーパー
おわりに

資料
　調査票

## はじめに

この研究テーマの設定は、研究代表者、研究分担者の大学においてここ数年の経験からスタートした。就職氷河時代といわれ、多くの学生が就職活動に力をいれても正社員への道は厳しく、特に女子大学生は非正規社員へとその進路を返還せざるをえない状況が続いてきた。それどころか、学費の主たる負担者である家族も経済的な苦境にただされ、学業半ばで大学を中退するケースもここ数年増加している。

大学への進学時の学費の負担は家族が負っている。奨学金はその負担を補うものとして近年奨学金の受給者も増加している。奨学金の返済は貸与された学生が負うことになる。しかし奨学金が借金であるという認識を持つ学生は意外と少ない。しかも将来に向かって返済をするためには、雇用の安定した職業に就くという前提が必要であるという前提があることも意識している学生はそれほど多くない。特に女子学生の場合、ジェンダー規範が大きく影響している。女子学生の親世代が経験したキャリアデザインとは大きく異なるキャリアを進むことを余儀なくされている。親から子への経済的サポートのみならず精神的なサポートもキャリア選択に必要であるにもかかわらず、親の経験知が女子学生のキャリアデザインに直接有効であるとはいえない。

本研究の目的は、これまで家族資本に頼ってきた大学生の将来のキャリアデザインが社会状況の変化によってどのように変化したかに焦点を当て、卒業前の就職活動中の女子学生を対象とする。そして「将来の生活に対する不安」が学生時代から醸成されている事実を明らかにする。

# 第１章　調査研究の目的と枠組み

## １．研究の学術的背景

総務庁労働力調査によると､若者の失業率の高さや非正規雇用の増加は 1990 年代から既に始まり､2007 年調査では､就職氷河期と呼ばれる 20 歳から 34 歳で特に著しい。また「第 6 回 21 世紀成年者縦断調査」によると、非正規雇用や所得が低くなるにつれて、結婚や出産が難しくなる傾向が浮かんでいる。このような若者の非正規雇用の増加、若者のライフコースの変容の原因として、若者自身のメンタリティーや文化の問題として「自己責任論」が登場した。若年層に広がる不安定に雇用された「フリーター」や、若年失業者である「ニート」の職業意欲の欠如が問題とされ、また「フリーター」や「ニート」が親に依存している状況を「パラサイト」と呼び親の育て方の問題として若者ばかりでなく親の自己責任まで問われることとなった。

その後、若者及びその家族の「自己責任論」に疑問符が投げかけられた。宮本みちこ（2004）は､『ポスト青年期と親子戦略』において、もともと教育から労働への移行が不安定な社会構造になっている中で、若者が家族に経済的依存する期間が長期化し「若者の貧困」や「若者の将来に対する不安」が家族の中に隠されてきたことを指摘した。職業選択や職業に必要とされる高等教育の選択をするスタート時点から、家族資本を持たない若者は、最初から不利な立場にたっており選択の自由も選択の機会もない不平等な状態であることが問題視された。貧困家庭やひとり親家庭、児童福祉施設経験者は、家族に依存することができないことや、高等教育や職業の取得の機会を失うリスクが高いことが、浅井（2008)『子どもの貧困　子ども時代のしあわせ平等のために』や湯浅（2009）の『若者と貧困』によって明らかにされた。

また、研究代表者の竹田美知は、2007 年から 2009 年にかけて基盤研究（C）を受け、「ひとり親家族の韓日比較－未婚・非婚・既婚の親子のジェンダー分析－」について量的・質的調査を行った。未婚やひとり親世帯にある若者が経済的自立をとげるためには、あまりにも乏しい家族資源に加えて公的な社会的支援からも除外されてきたという調査結果を得た。

## ２．研究の目的

本研究はこのような学術的背景のもとに、教育から労働への移行期である就職活動中の大学生を対象として、これまで「若者の貧困」や「若者の将来に対する不安」を潜在化してきた家族資本の実態、さらに家族資本以外の社会的資本の欠如している状況に関して、学生・保護者・大学・公的支援機関などを対象として調査を行い、明らかにすることである。

第 1 に、子どもが現在の生活において、どのように親の家族資本（経済資源・人的資源・社会関係資源）を使って学業を継続したり、就職活動をしたりしたかといった実態を把握したい。また親と子の双方が、どのように家族資本以外の社会的資源を認

知し活用しているか明らかにしたい。

第２に、家族資本に影響する多くの要因分析にも着手したい。経済的状況、親の学歴、子の就職・学業に関する価値観（子の世代意識）、子どもの自立に対する意識、子のこころの健康状態、家族構造、地域の価値観、親の将来のライフコース、子どもの将来ライフコース設計など経済的側面、精神的側面、社会関係的側面、生活の側面から総合的に分析をしたい。

**３．研究枠組み**

家族資源論は、単身赴任家族、介護家族の分析に対して、二重ＡＢＣ－Ｘモデルのような家族ストレス論の中でのモデルとして使われてきた。在宅老人介護者の危機処理のための資源として松岡は、マッカバンの提唱した個人、家族、コニュニティーをさらに発展させて個人資源、家族資源、親族資源、友人・知人や近隣などの準社会資源、行政などの社会資源の５つにさらに分類し人的資源、物的資源、経済資源の３つのレベルでとらえている（松岡、1993、1994）。コールマンは、「個人が持つことのできる資源自体、文化的脈略、社会規範、社会構造に規定される」というこれまでの資源論の限界に「社会関係資本」という概念を導入した（コールマン、1988）。

図１のように、本研究では家族資本を取り巻く資本として個人資本、社会資本があるという前提で調査枠組みを設定した。個人レベル、家族レベル、社会レベルで経済的資源、人的資源、社会関係資源があるとして操作変数を設定した。

1．浅井春夫、湯澤直美、松本伊智郎、2008、『子どもの貧困　子ども時代のしあわせ平等のために』明石書店

２.ジェームス・Ｓ・コールマン、1988、［金光　淳訳］　「人的資本形成における社会関係資本」　『リーディングス　ネットワーク論　』、2007、勁草書房、p.205 -234

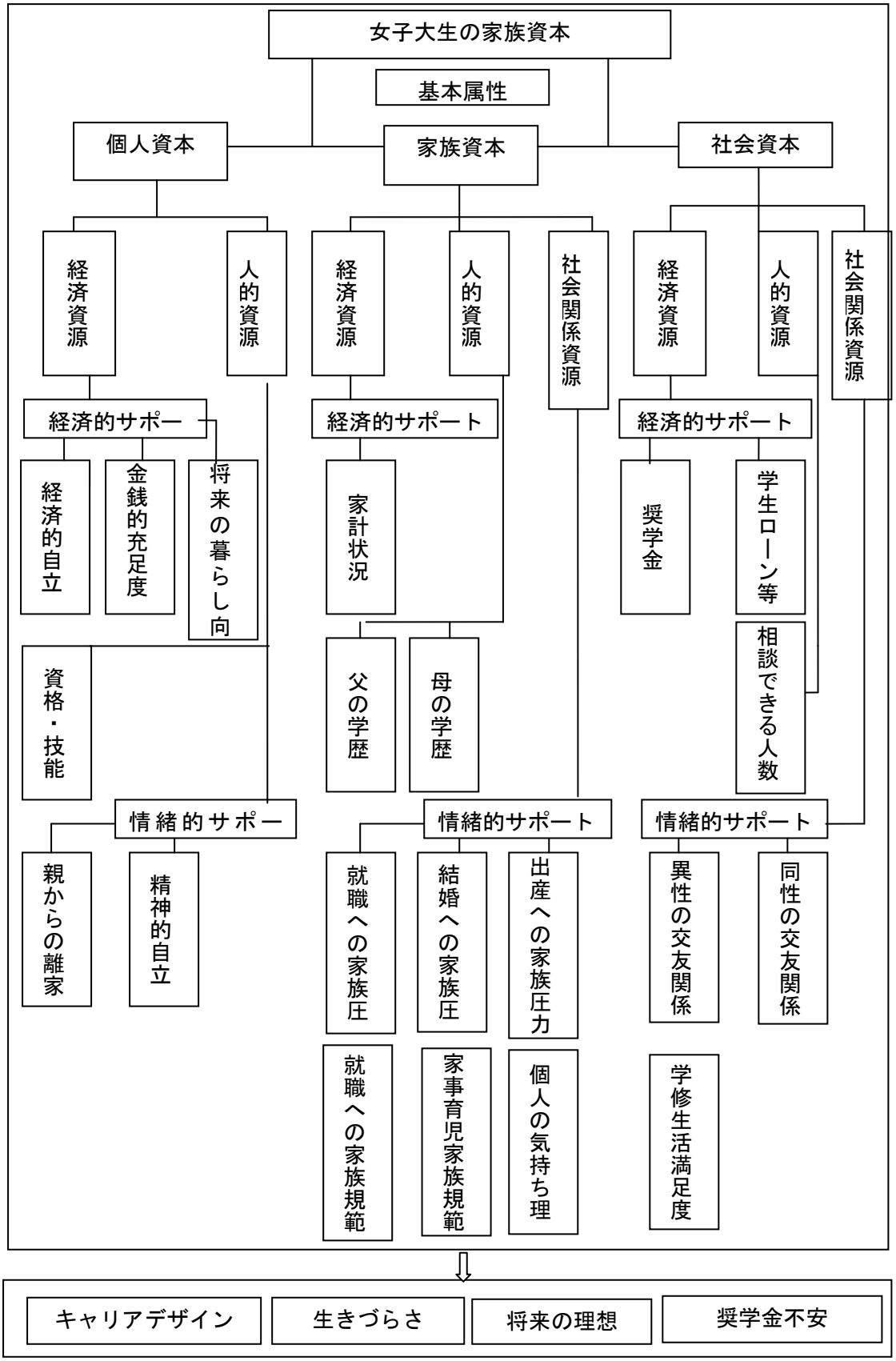
３．松岡英子、1993、「在宅介護老人の介護者ストレス」、家族社会学研究、Ｎｏ．５、1993、p.101-112

４.松岡英子、1994、「在宅老人介護者のストレスに対する資源の緩衝効果」、家族社会学研究、Ｎｏ.6、1994、p.81 -95

５．宮本美智子、2004、『ポスト青年期と親子戦略－大臣になる意味と価値の変容―』勁草書房

6．湯浅真他、2009、『若者と貧困』　明石書店

**図 1**


女子大生の家族資本
基本属性
個人資本
家族資本
社会資本
経済資源
人的資源
経済資源
人的資源
社会関係資源
経済資源
人的資源
社会関係資源
経済的サポー
経済的サポート
経済的サポート
経済的自立
金銭的充足度
将来の暮らし向
家計状況
奨学金
学生ローン等
資格・技能
父の学歴
母の学歴
相談できる人数
情緒的サポー
情緒的サポート
情緒的サポート
親からの離家
精神的自立
就職への家族圧
結婚への家族圧
出産への家族圧力
異性の交友関係
同性の交友関係
就職への家族規範
家事育児家族規範
個人の気持ち理
学修生活満足度
キャリアデザイン
生きづらさ
将来の理想
奨学金不安

## 第２章　私立女子大学生調査

### １．調査概要

2012 年 11 月～12 月に、３県（神奈川・兵庫・岡山）、４大学の女子大学生を対象に調査を実施した。調査票配布にあたっては、研究代表者（竹田美知）が調査倫理委員会の許可を受けた後、各大学において、自記式質問調査票を配布、記入後回収する方法を取った。

配票総数は 1246 票で、そのうち無効票は 12 票、有効票率は 99.0%であった。分析に際して、４年制大学の女子学生に対象を絞ったため、最終的には 1097 票を分析対象とした。

### ２．調査結果

（１）調査対象者の属性

１）居住形態

学生の居住形態について、５つの選択肢から回答を求めた。「自宅通学」が 78.8%ともっとも多く、ついで多かったのが「アパートなど」の 18.2%であった。本調査の対象者の約８割は自宅通学であった。

表２－２－１　居住形態

n=1094,（%）

| 自宅通学 | 寮 | アパートなど | 食事付き下宿 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 78.8 | 1.9 | 18.2 | 0.4 | 0.7 |

２）家族構成

家族構成を知るために、「父」「母」「きょうだい」「祖父」「祖母」「その他」から当てはまる人すべてを選択してもらい、「核家族」（「父母」「母」「父」）、「拡大家族」、「その他」に分類した。

その結果、「核家族」が 66.9%、「拡大家族」が 30.7%であった。核家族の内訳をみると、ひとり親の家族が 4.5%（母子：4.0%、父子：0.5%）であった。

表２－２－２　家族構成

n=1097,（%）

| 核家族 | | | 拡大家族 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 父母 | 母（ひとり親） | 父（ひとり親） | | |
| 62.4 | 4.0 | 0.5 | 30.7 | 2.3 |

３）父親・母親の最終学歴

父親の最終学歴、母親の最終学歴について、表２－２－３、表２－２－４に示す。

父親は「大学」が 53.7%ともっとも多く、ついで「高等学校」が 30.7%であった。母親は「高等学校」が 30.7%、「大学」が 26.0%、「短大／高専」が 25.6%と、父親に比べると、母親の最終学歴は、高校、短大、大学と分散する傾向がみられた。

表２－２－３　父親の最終学歴

n=1010,（%）

| 中学校 | 高等学校 | 短大／高専 | 専門学校 | 大学 | 大学院 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2.1 | 30.7 | 4.1 | 5.1 | 53.7 | 3.8 | 0.6 |

表２－２－４　母親の最終学歴

n=1058,（%）

| 中学校 | 高等学校 | 短大／高専 | 専門学校 | 大学 | 大学院 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.8 | 34.7 | 25.6 | 12.3 | 26.0 | 0.4 | 0.3 |

４）母親の職業経歴

母親の職業経歴について、６つの選択肢から回答を求めた。その結果、表２－２－５に示すように、「結婚・出産を機に就業を中断し、子どもがある程度大きくなってから再びパートで働いている」が 45.9%ともっとも多かった。ついで多かったのは、「結婚前から現在まで仕事を続けている」の 19.0%で、「結婚・出産を機に就業を退職し、その後は仕事を持っていない」の 16.4%がそれに続いた。

結婚・出産に関わらず、仕事を継続している母親は２割程度であり、半数以上は結婚・出産を機に就業を中断おり、中断後の就職ではパートでの就労が多かった。専業主婦は２割弱であった。

表２－２－５　母親の職業経歴

n=1067,（%）

| | |
|---|---|
| 結婚前から現在まで仕事を続けている | 19.0 |
| 結婚・出産を機に就業を中断し、子どもがある程度大きくなってから再びパートで働いている | 45.9 |

| | |
|---|---|
| 結婚・出産を機に就業を中断し、子どもがある程度大きくなってから再び正社員で働いている | 11.1 |
| 結婚・出産を機に就業を退職し、その後は仕事を持っていない | 16.4 |
| 結婚前から現在まで専業主婦である | 4.0 |
| その他 | 3.6 |

（２）経済状況とアルバイト

１）家計の状況

家庭の経済状況を知るため、家計の状況について、「ゆとりがある」「どちらかといえばゆとりがある」「どちらかといえば苦しい」「苦しい」の４件法で回答を求めた。

その結果、約半数の 51.8%が「どちらかといえばゆとりがある」と回答し、「ゆとりがある」（12.3%）と合わせると、６割以上の者が「ゆとりがある」と感じていた。しかし、「どちらかといえば苦しい」と回答した者も 29.2%みられ、「苦しい」と回答した者（6.7%）と合わせると、学生の約３人に１人が、家計の状況を「苦しい」と感じている結果となった。

表２－２－６　家計の状況

n=1085,（%）

| | |
|---|---|
| ゆとりがある | 12.3 |
| どちらかといえばゆとりがある | 51.8 |
| どちらかといえば苦しい | 29.2 |
| 苦しい | 6.7 |

２）生活費の状況

家からもらうお金（家族からの金銭的援助）について、「充分足りている」「若干足りていない」「まったく足りていない」「受けていない」の４件法で回答を求めた。

「充分足りている」と回答した者が 48.0%ともっとも多く、「若干足りない」25.9%、「まったく足りていない」4.9%という結果であった。家族からの金銭的援助を「受けていない」者も 21.2%みられた。

表２－２－７　家族からの金銭的援助

n=1089,（%）

| | |
|---|---|
| 充分足りている | 48.0 |

| | |
|---|---|
| 若干足りない | 25.9 |
| まったく足りない | 4.9 |
| 受けていない | 21.2 |

家族からの金銭的援助について、「若干足りていない」「まったく足りていない」「受けていない」と回答した者に対して、生活費の不足分を何で補っているか、複数回答で回答を求めた。

結果は表２－２－８のとおりである。「アルバイト」による補充が 89.0%ともっとも多く、約９割の学生がアルバイトで得たお金を生活費に充てていることがわかった。また、27.1%の学生が「奨学金」で生活費を補充している現状もうかがえた。

表２－２－８　生活費の補充（M.A.）

n=553,（%）

| | |
|---|---|
| アルバイト | 89.0 |
| 奨学金 | 27.1 |
| 親類など家族以外からの援助 | 9.4 |
| その他 | 2.9 |

３）大学の学費負担者

大学にかかる経費の負担者について「おもに保護者」「保護者と自分の負担は半分ずつ」「おもに自分」「その他」から選択を求めた。

その結果、「おもに保護者」と回答した者が 88.4%ともっとも多く、約９割の学生が、大学の学費を保護者に負担してもらっていた。学費には、家族の経済的資源が使われている。一方で、「おもに自分」で負担している学生が 5%、「保護者と自分の負担は半分ずつ」という学生が 4.5%みられ、学生の金銭的負担が懸念される結果となった。

表２－２－９　大学の学費負担者

n=1078,（%）

| | |
|---|---|
| おもに保護者 | 88.4 |
| 保護者と自分の負担は半分ずつ | 4.5 |
| おもに自分 | 5.0 |
| その他 | 2.0 |

４）アルバイトの状況

アルバイトの状況を知るため、現在のアルバイトの有無、アルバイトの目的（複数

回答)、アルバイトの平均収入（月収）についてたずねた。

現在のアルバイトの有無については、「アルバイトをしている」と回答した者が78.6%と、多くの学生がアルバイトをしている現状がみられた。

表２－２－１０　アルバイトの有無

n=1083,（%）

| | |
|---|---|
| アルバイトをしている | 78.6 |
| アルバイトをしていない | 21.4 |

そこで､｢アルバイトをしている｣と回答した者に対し､アルバイトの目的について、７つの選択肢から回答を求めた（複数回答)。結果を表２－２－１１に示す。

もっとも多かったのは「小遣い」の94.7%で、学生のアルバイト目的の１番目は自分の自由に使えるお金を得るためであることがうかがえる。ついで多かったのは「社会勉強」の 52.6%であった。一方で、「生活費」(40.7%）や学費（7.5%）や住居費（2.8%）のためにアルバイトをしている学生の存在もみられた。

表２－２－１１　アルバイトの目的（M.A.）

n=856,（%）

| 学費 | 住居費 | 生活費 | 小遣い | 友人づくり | 社会勉強 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 7.5 | 2.8 | 40.7 | 94.7 | 8.1 | 52.6 | 3.0 |

アルバイトによる平均収入（月収）について、「３万円未満」「３万円以上５万円未満」「５万円以上７万円未満」「７万円以上１０万円未満」「１０万円以上」から選択を求めた。

もっとも多かったのは「３万円以上５万円未満」の37.1%で、つぎに多かったのは「５万円以上７万円未満」の28.4%であった。

表２－２－１２　アルバイトの平均収入（月収）

n=855,（%）

| | |
|---|---|
| ３万円未満 | 16.8 |
| ３万円以上５万円未満 | 37.1 |
| ５万円以上７万円未満 | 28.4 |
| ７万円以上１０万円未満 | 14.0 |
| １０万円以上 | 3.6 |

５）奨学金・教育ローンの受給状況

奨学金の受給状況を知るため、受給状況について７つの選択肢から回答を求めた。

「日本学生支援機構の奨学金（第一種・第二種）をもらっている」(35.7%）と「日本学生支援機構以外の奨学金をもらっている」(3.0%）を合わせると、約４割の学生が、現在、奨学金を受給している結果となった。これに、「奨学金を申請したがもらえなかった」(3.3%)、「奨学金をもらいたいが申請しなかった」(9.4%）を合わせると、約５割が奨学金の必要性を感じていることが明らかになった。

表２－２－１３　奨学金の受給状況（M.A.）

n=1027,（%）

| | |
|---|---|
| 日本学生支援機構の奨学金（第一種・第二種）をもらっている | 35.7 |
| 日本学生支援機構以外の奨学金をもらっている | 3.0 |
| 奨学金を申請したがもらえなかった | 3.3 |
| 奨学金をもらいたいが申請しなかった | 9.4 |
| 奨学金をもらう必要性を感じなかった | 44.7 |
| 以前は奨学金をもらっていたが、今はもらっていない | 2.3 |
| その他 | 4.0 |

つぎに、親が借りている教育ローンの状況について、５つの選択肢から回答を求めた。

その結果、もっとも多かったのは「わからない」(64.4%）で、ついで多かったのは「どこからも教育ローンを借りていない」(29.4%）であった。一方で、なんらかの教育ローン（国の教育ローン、民間金融機関の教育ローン、大学からの教育ローン）を借りていると回答した者は 6.4%であった。「わからない」の回答の多さから、経済的なことについては、親子であまり話をしていない状況がうかがえた。

表２－２－１４　教育ローンの借入状況

n=1061,（%）

| | |
|---|---|
| 国の教育ローン（日本政策金融公庫・郵貯貸付・年金教育貸付）を借りている | 4.6 |
| 民間金融機関からローンを借りている | 1.1 |
| 大学から教育ローンを借りている | 0.7 |
| どこからも教育ローンを借りていない | 29.4 |
| わからない | 64.4 |

将来、返済が必要な奨学金や教育ローンを受給している（過去に受給していた）者

に、奨学金や教育ローンの返済の不安について、「大いに不安である」「多少不安である」「あまり不安ではない」「まったく不安はない」の４件法で回答を求めた。

その結果、「大いに不安である」(29.7%）と「多少不安である」(42.9%）を合わせると、約７割の者が返済不安を抱えていることがわかった。

表２－２－１５　奨学金や教育ローンの返済不安

n=475,（%）

| | |
|---|---|
| 大いに不安である | 29.7 |
| 多少不安である | 42.9 |
| あまり不安はない | 19.2 |
| まったく不安はない | 8.2 |

６）将来の暮らし向きの見通し

将来の暮らし向きの見通しについて、「ゆとりがある」「どちらかといえばゆとりがある」「どちらかといえば苦しい」「苦しい」の４件法で回答を求めた。

その結果、「どちらかといえばゆとりがある」(43.8%）と「どちらかといえば苦しい」(44.1%）と回答した者が同程度で多かった。また、ゆとりがある（「ゆとりがある」「どちらかといえばゆとりがある」）という見通しを持っている者と、苦しい（「どちらかといえば苦しい」「苦しい」）という見通しを持っている者は、ほぼ半数ずつであった。

表２－２－１６　将来の暮らし向きの見通し

n=1063,（%）

| | |
|---|---|
| ゆとりがある | 5.6 |
| どちらかといえばゆとりがある | 43.8 |
| どちらかといえば苦しい | 44.1 |
| 苦しい | 6.5 |

（３）家族関係

１）家族との関係

家族との関係について１１項目を設定し、「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の４件法で回答を求めた。その結果を表２－２－１７に示す。

「家族から、卒業後はすぐ就職するようにいわれる」かどうかについては、「とてもあてはまる」と回答した割合が 63.9%ともっとも高く、ついで「だいたいあてはまる」が 28.0%と、あわせると 91.9%と約９割強の学生が家族から就職するようにいわれている状況がうかがえる。

「家族から、将来結婚するようにいわれる」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 39.4%、ついで「とてもあてはまる」が 26.6%、「あまりあてはまらない」が 23.8%、「まったくあてはまらない」が 10.2%とつづいている。

「家族から、将来子どもを産むようにいわれる」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 37.9%、「あまりあてはまらない」が 28.0%、「とてもあてはまる」21.6%、「まったくあてはまらない」が 12.5%となっている。

結婚や出産については、就職ほどにはいわれていないようである。

「家族から、将来面倒を見て欲しいといわれる」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 46.7%ともっと多く、「まったくあてはまらない」が 24.2%、「だいたいあてはまる」が 22.6%となっている。

「困ったことがあっても家族には話せないことが多い」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 46.9%ともっとも多く、「まったくあてはまらない」が 26.2%となっている。

「家族は、自分の気持ちをよくわかってくれる」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 51.5%と約半数を占め、ついで「とてもあてはまる」が 23.4%、「あまりあてはまらない」が 21.0%とほぼ同じ割合でつづく。

「自分のことで家族をがっかりさせたくない」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 43.8%、「とてもあてはまる」が 42.7%で、両方をあわせると 86.5%と約９割弱の学生が家族をがっかりさせたくないと回答している。

「家族は、女も外に出て働くべきだと考えている」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 39.0%、「あまりあてはまらない」が 37.3%と、肯定と否定がほぼ半々という結果であった。

「家族は、女は結婚し、子どもを産むべきだと考えている」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 41.0%ともっとも多く、ついで「だいたいあてはまる」が 33.5%、「まったくあてはまらない」が 14.9%、「とてもあてはまる」が 10.6%となっている。結婚や出産についての考えは、家族によってまちまちであるようだ。

「家族から、早く家を出て自立するようにいわれる」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 47.1%ともっとも多く、ついで「まったくあてはまらない」が 28.8%と、両方をあわせると 75.9%と約８割弱の学生は、家族からあまり自立を促されていないという状況が見えてきた。

表２－２－１７　家族との関係

(%)

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまりあて<br>はまらない | まったくあて<br>はまらない |
|---|---|---|---|---|
| 家族から、卒業後は就職するようにいわれる (n=1093) | 63.9 | 28.0 | 5.8 | 2.4 |
| 家族から、将来結婚するようにいわれる (n=1092) | 26.6 | 39.4 | 23.8 | 10.2 |
| 家族から、将来子どもを産むようにいわれる (n=1091) | 21.6 | 37.9 | 28.0 | 12.5 |
| 家族から、将来面倒をみてほしいといわれる (n=1087) | 6.3 | 22.6 | 46.7 | 24.4 |
| 困ったことがあっても、家族には話せないことが多い (n=1090) | 5.9 | 21.0 | 46.9 | 26.2 |
| 家族は自分の気持ちをよくわかってくれる (n=1087) | 23.4 | 51.5 | 21.0 | 4.1 |
| 自分のことで家族をがっかりさせたくない (n=1093) | 42.7 | 43.8 | 11.5 | 1.9 |
| 家族は、女も外に出て働くべきだと考えている (n=1089) | 15.1 | 39.0 | 37.3 | 8.6 |
| 家族は、女は結婚し、子どもを産むべきだと考えている (n=1087) | 10.6 | 33.5 | 41.0 | 14.9 |
| 家族は、女は結婚したら家事や育児をするべきだと考えている (n=1086) | 8.9 | 37.9 | 39.0 | 14.2 |
| 家族から、早く家を出て自立するようにいわれる (n=1090) | 8.3 | 15.9 | 47.1 | 28.8 |

２）両親の役割分担

両親の家での役割分担についてたずねる問いを設定し、５つの選択肢から回答を求めた。

その結果、表２－２－１８に示すように、「お父さんお母さんともに仕事をし、おもにお母さんが家事育児を行う」と回答した割合が 47.0%ともっとも高く、ついで「お父さんが仕事をし、お母さんが家事育児を行う」という専業主婦型が 31.9%、「お父さんお母さんともに仕事をし、お父さんお母さんともに家事育児を行う」という男女共同参画型が 12.1%であった。

表２－２－１８　両親の役割分担

n=1076,（%）

| | |
|---|---|
| お父さんが仕事をし、お母さんが家事育児を行う | 31.9 |
| お父さんお母さんともに仕事をし、おもにお母さんが家事育児を行う | 47.0 |
| お父さんお母さんともに仕事をし、お父さんお母さんともに家事育児を行う | 12.1 |
| お父さんお母さんともに仕事をし、おもにあなたや祖父母など他の家族員が家事育児を行う | 3.2 |
| その他 | 5.9 |

（４）生活意識と将来展望

１）生活に対する意識

日常生活に対する意識や将来設計について１２の設問を設定し、それぞれの項目について「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の４件法で回答を求めた。その結果を表２－２－１９に示す。

「日常生活全般に満足している」かどうかという問いに対して、「だいたいあてはまる」と回答した割合が 59.9%ともっとも高く、ついで「とてもあてはまる」が 22.1%、「あまりあてはまらない」が 15.8%とつづいている。「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」をあわせると 82%と約８割強の学生が日常生活に満足していると回答している。

「いまの自分は経済的に自立している」かどうかという問いに対しては、「あまりあてはまらない」が 45.3%、「まったくあてはまらない」が 37.6%と、あわせると 82.9%と約８割強の学生が経済的に自立していないと回答する結果となった。

「いまの自分は精神的に自立している」かどうかという問いに対しては、「あまりあてはまらない」が 49.3%と約半数の学生が回答している。ついで「だいたいあてはまる」が 34.3%、「まったくあてはまらない」が 37.6%となっている。

「自分にはかなえたい夢や将来の希望がある」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 41.6%ともっとも多く、ついで「とてもあてはまる」が 27.3%、「あまりあてはまらない」が 23.6%となっている。

「早く、親から離れて生活したい」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 44.2%ともっとも多く、ついで「だいたいあてはまる」が 29.4%となっている。

「家庭生活に満足している」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 49.1%ともっとも多く、ついで「とてもあてはまる」が 34.5%で、両方をあわせると 83.6%と約８割強の学生が家庭生活に満足していると回答している。

「学校生活に満足している」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 52.3%

と約半数を占め、ついで「とてもあてはまる」が 23.2%、「あまりあてはまらない」が 19.6%とつづいている。

「同性との交友関係に満足している」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 51.7%と約半数を占め、ついで「とてもあてはまる」が 40.9%となっており、両方をあわせると 92.6%と約９割強の学生が同性の友人関係に満足していると回答している。

「異性との交友関係に満足している」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 41.6%、ついで「あまりあてはまらない」が 30.5%、「とてもあてはまる」が 18.2%とつづいている。

「就職活動に力を入れている」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 49.2%ともっとも多く、ついで「まったくあてはまらない」が 24.9%となっている。調査時期なども関係していると思われるが、今回の調査では就職活動には力を入れていない学生が約７割強という結果であった。

「結婚のための活動（婚活）に力を入れている」かどうかについては、「まったくあてはまらない」が 55.8%ともっとも多く、ついで「あまりあてはまらない」が 35.8%となっている。いまの女子学生にとって、大学生期が「婚活」を意識するような時期ではないことが推察される。

さいごに、「将来に向けた資格・技能の習得に力を入れている」かどうかについては、「だいたいあてはまる」が 35.1%、「あまりあてはまらない」が 33.1%となっており、力を入れていると回答した者とそうでない者の回答の割合はほぼ半々という結果であった。

表２－２－１９　生活に対する意識

（%）

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまりあて<br>はまらない | まったくあて<br>はまらない |
|---|---|---|---|---|
| 日常生活全般に満足している (n=1091) | 22.1 | 59.9 | 15.8 | 2.3 |
| いまの自分は経済的に自立している (n=1091) | 3.5 | 13.7 | 45.3 | 37.6 |
| いまの自分は精神的に自立している (n=1091) | 4.9 | 34.3 | 49.3 | 11.5 |
| 自分にはかなえたい夢や将来の希望がある (n=1093) | 27.3 | 41.6 | 23.6 | 7.5 |
| 早く、親から離れて生活したい | 13.9 | 29.4 | 44.2 | 12.4 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| (n=1090) | | | | |
| 家庭生活に満足している (n=1092) | 34.5 | 49.1 | 13.2 | 3.2 |
| 学校生活に満足している (n=1093) | 23.2 | 52.3 | 19.6 | 4.8 |
| 同性との交友関係に満足している (n=1093) | 40.9 | 51.7 | 7.1 | 1.2 |
| 異性との交友関係に満足している (n=1087) | 18.2 | 41.6 | 30.5 | 9.7 |
| 就職活動に力を入れている (n=1085) | 7.0 | 18.9 | 49.2 | 24.9 |
| 結婚のための活動（婚活）に力を入れている (n=1091) | 2.7 | 5.7 | 35.8 | 55.8 |
| 将来に向けた資格・技能の習得に力を入れている (n=1091) | 16.5 | 35.1 | 33.1 | 15.3 |

２）理想のライフコース

理想のライフコースをたずねる問いを設定し、６つの選択肢から回答を求めた。

その結果、表２－２－２０に示すように、「結婚し、子どもをもつが、結婚あるいは出産を機にいったん退職し、子育て後ふたたび仕事をもつ」という結婚出産で中断、再就職型が 48.2%ともっとも多く、ついで「結婚し、子どもをもつが、仕事も続ける」という継続就労型が 32.4%とつづいている。さらに、「結婚し、子どもをもち、結婚あるいは出産を機にいったん退職し、その後は仕事をもたない」という結婚出産で退職型も 12.3%となっている。

表２－２－２０　理想のライフコース

n=1090, （%）

| | |
|---|---|
| 結婚せず、仕事を続ける | 3.7 |
| 結婚するが、子どもはもたず、仕事を続ける | 2.8 |
| 結婚し、子どもをもつが、仕事も続ける | 32.4 |
| 結婚し、子どもをもつが、結婚あるいは出産を機にいったん退職し、子育て後ふたたび仕事をもつ | 48.3 |

| | |
|---|---|
| 結婚し、子どもをもち、結婚あるいは出産を機にいったん退職し、その後は仕事をもたない | 12.3 |
| 結婚から、ずっと仕事をもたない | 0.6 |

３）理想の役割分担

「将来、家庭をもつと仮定したときに、あなたの理想とする夫婦の役割分担のあり方としていちばん近いと思うものに○をつけてください」という問いを設定し、５つの選択肢から回答を求めた。

その結果、表２－２－２１に示すように、「夫、妻ともに仕事をし、夫、妻ともに家事育児を行う」を選んだ割合が 64.1%ともっとも高く、ついで「夫が仕事をし、妻が家事育児を行う」が 23.3%、つぎに「夫、妻ともに仕事をし、おもに妻が家事育児を行う」が 10.6%、「夫、妻ともに仕事をし、おもに祖父母などの他の家族員が家事育児を行う」が 1.4%という結果となった。夫婦が共働きで家事育児も協力し合うという男女共同参画型の役割分担を望ましいと考えている学生が多いようであるが、専業主婦型を望んでいる学生も約２割強となっている。

表２－２－２１　理想の役割分担

n=1088,（%）

| | |
|---|---|
| 夫が仕事をし、妻が家事育児を行う | 23.3 |
| 夫、妻ともに仕事をし、おもに妻が家事育児を行う | 10.6 |
| 夫、妻ともに仕事をし、夫、妻ともに家事育児を行う | 64.1 |
| 夫、妻ともに仕事をし、おもに祖父母など他の家族員が家事育児を行う | 1.4 |
| その他 | 0.6 |

４）卒業後の進路

大学卒業後の進路について、「就職する」「大学院に進学する」「専門学校に進学する」「就職も進学もしない」「まだ決めていない」の５つの選択肢を設け、その中からひとつ選んでもらった。

その結果、表２－２－２２に示すように、「就職する」が 89.9%ともっとも多く、約９割の学生が就職を希望している結果となった。一方、「まだ決めていない」と回答した者も 7.6%と約１割弱という結果であった。

表２－２－２２　卒業後の進路

n=1085,（%）

| | |
|---|---|
| 就職する | 89.9 |

| | |
|---|---|
| 大学院に進学する | 0.7 |
| 専門学校に進学する | 1.1 |
| 就職も進学もしない | 0.7 |
| まだ決めていない | 7.6 |

５）就職先に求める条件

就職先に求める条件について、７項目を設定し、それぞれの項目についてどの程度重視するかを「とても重視する」「まあ重視する」あまり重視しない」「まったく重視しない」の４件法で回答を求めた。

「自分の能力や個性が生かせること」については、「まあ重視する」と回答した割合が 54.4%ともっとも高く、ついで「とても重視する」が 38.6%と、約９割以上の学生が重視していると回答していた。

「大学時代に身につけた知識や技術が生かせること」については、「まあ重視する」が 44.0%ともっとも高く、ついで「あまり重視しない」が 26.5%、「とても重視する」が 24.2%という結果になった。

「給料が高いこと」については、「まあ重視する」が 68.3%ともっとも高く、ついで「とても重視する」が 17.9%、「あまり重視しない」が 13.2%となっており、「とても重視する」と「まあ重視する」をあわせると約９割弱の学生が重視すると回答している。

「休みが多いこと」については、「まあ重視する」が 63.8%ともっとも高く、ついで「あまり重視しない」が 17.9%、「とても重視する」が 17.3%とほぼ同じ割合になっている。

「知名度が高い会社であること」については、「あまり重視しない」が 52.2%ともっとも高く、ついで「まあ重視する」が 28.7%となっている。就職先の知名度について、「あまり重視しない」と「まったく重視しない」をあわせると約 65%が重視しないと回答する結果となった。

「親元から近いこと」については、「まあ重視する」が 40.9%、ついで「あまり重視しない」が 34.9%となっている。

「結婚しても働き続けられること」については、「まあ重視する」が 47.6%ともっとも高く、ついで「とても重視する」が 25.2%、「あまり重視しない」22.3%となっている。結婚しても働き続けることができるかどうかという条件については、「とても重視する」「まあ重視する」をあわせると約７割強の学生が重視すると回答している。

「福利厚生が整っていること」については、「まあ重視する」が 50.7%と半数を占め、さらに、「とても重視する」「まあ重視する」をあわせると約９割強の学生が重視すると回答している。

女子大学生の就職先に求める条件としては、自分の能力や個性が生かせることや、

給料が高いこと、福利厚生が整っていることなどがとくに重視されているようである。逆に、知名度が高い会社であることや、親元から近いことといった条件についてはあまり重視していないという結果を得た。

表２－２－２３　就職先に求める条件

（%）

| | とても重視する | まあ重視する | あまり重視しない | まったく重視しない |
|---|---|---|---|---|
| 自分の能力や個性が生かせること (n=1090) | 38.6 | 54.4 | 6.4 | 0.6 |
| 大学時代に身につけた知識や技術が生かせること (n=1090) | 24.2 | 44.0 | 26.5 | 5.2 |
| 給料が高いこと (n=1092) | 17.9 | 68.3 | 13.2 | 0.6 |
| 休みが多いこと (n=1092) | 17.3 | 63.8 | 17.9 | 1.0 |
| 知名度が高い会社であること (n=1089) | 6.1 | 28.7 | 52.2 | 12.9 |
| 親元から近いこと (n=1090) | 13.3 | 40.9 | 34.9 | 10.9 |
| 結婚しても働き続けられること (n=1089) | 25.2 | 47.6 | 22.3 | 5.0 |
| 福利厚生が整っていること (n=1086) | 42.7 | 50.7 | 6.2 | 0.4 |

（５）最近の生活状況

１）悩み事と相談相手

「あなたが、最近、いちばん悩んでいることは何ですか」という問いに対し、「自分の容姿」「勉学」「将来の進路や就職」「自分の性格や能力」「学費や生活費」「友人関係」「恋愛関係」家族関係」「その他」「とくにない」という１０の選択肢を設け、その中からひとつ選んでもらった。

その結果、表２－２－２４に示すように、もっとも多かったのが「将来の進路や就職」に関する悩みで、48.6%と約半数の学生が選択した。ついで多かったのが、「自分

の性格や能力」の 13.5%、「勉学」の 9.6%とつづく。「とくにない」と回答した者の割合は 6.6%であった。

表２－２－２４　　最近、いちばん悩んでいること

n=1086,（%）

| | |
|---|---|
| 自分の容姿 | 5.8 |
| 勉学 | 9.6 |
| 将来の進路や就職 | 48.6 |
| 自分の性格や能力 | 13.5 |
| 学費や生活費 | 4.5 |
| 友人関係 | 2.7 |
| 恋愛関係 | 4.6 |
| 家族関係 | 1.8 |
| その他 | 2.2 |
| とくにない | 6.6 |

つづいて、悩みの相談相手について、「あなたがその悩みをもっともよく相談する相手は誰ですか」という問いを設定し、「同性の友だち」「異性の友だち」「恋人」「きょうだい」「祖父母」「学校の先生」「サークルの人」「アルバイト先の人」「ネット上のブログ、プロフなど」「就職指導部や学生部など大学の相談機関」「カウンセラー」「その他」「誰にも相談しない」という１４の選択肢を設け、その中からひとつを選んでもらった。

その結果、表２－２－２５に示すように、「同性の友だち」が 49.9%ともっとも多く、半数を占めていた。つぎに多いのが「親」の 22.7%であった。また、「誰にも相談しない」と回答した者が 11.5%と、約１割の学生は悩みがあっても誰にも相談していないという状況が見出された。

表２－２－２５　悩みを相談する相手

n=1015,（%）

| | |
|---|---|
| 同性の友だち | 49.9 |
| 異性の友だち | 1.1 |
| 恋人 | 4.3 |
| 親 | 22.7 |
| きょうだい | 5.6 |
| 祖父母 | 0.0 |
| 学校の先生 | 0.5 |

| | |
|---|---|
| サークルの人 | 1.1 |
| アルバイト先の人 | 1.3 |
| ネット上のブログ、プロフなど | 0.6 |
| 就職指導部や学生部などの大学相談機関 | 0.6 |
| カウンセラー | 0.2 |
| その他 | 0.7 |
| だれにも相談しない | 11.5 |

２）大学生活の満足度

学生の大学生活に対する満足度を知るために､｢学生生活のサポートや支援体制｣｢アドバイザーなどの教員との関係｣「就職支援やサポート体制」「大学周辺の環境」の４項目について、「満足」「だいたい満足」「やや不満」「不満」の４件法でたずねた。

「学生生活のサポートや支援体制」について、もっとも多かったのが「やや不満」の 57.7%であった。「やや不満」「不満」をあわせると、65.7%と 7 割弱の者が不満を感じているという結果になった。

「アドバイザーなどの教員との関係」について、もっとも多かったのが「やや不満」の 58.0%で、「やや不満」「不満」をあわせると、67.4%と約 7 割弱の者が不満を感じている。

同様に、「就職支援やサポート体制」についても、「やや不満」と回答したものの割合が 56.5%で、「やや不満」「不満」をあわせると 63.8%と約 6 割強の者が不満を感じている結果になった。

さいごに「大学周辺の環境」について、「やや不満」が 53.6%ともっとも多く、「やや不満」「不満」をあわせると 65.5%という結果になった。

学生の大学生活に対する満足度をみたところ、学生生活のサポート体制、教員との関係、就職のサポート体制、大学周辺の環境のいずれに対しても、何らかの不満を持っているようである。

表２－２－２６　大学生活の満足度

(%)

| | 満足 | だいたい満足 | やや不満 | 不満 |
|---|---|---|---|---|
| 学生生活のサポートや支援体制 (n=1081) | 5.9 | 28.3 | 57.7 | 8.0 |
| アドバイザーなどの教員との関係 | 5.5 | 27.1 | 58.0 | 9.4 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| (n=1075) | | | | |
| 就職支援やサポート体制 (n=1076) | 6.3 | 29.8 | 56.5 | 7.3 |
| 大学の周辺の環境 (n=1082) | 10.1 | 24.4 | 53.6 | 11.9 |

３）生きづらさ

表２－２－２７に示すように、生活していくうえでの「生きづらさ」について問う項目を８つ設定し、「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の４件法で回答を求めた。

「『生きているのはつらい』とか『消えてしまいたい』と思うことがある」かどうかについてたずねたところ、「あまりあてはまらない」が 40.8%ともっとも多かった。逆に「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」をあわせると 25.5%と、約４人に１人があてはまると回答していた。

「どこにも自分の居場所がないような気がする」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 47.7%と約半数を占めており、「まったくあてはまらない」とあわせると 80.2%と８割があてはまらないと回答していた。逆に、約２割があてはまると回答している。

「自分なんかこの世に生まれてこなければ良かったと思う」かどうかについては、「まったくあてはまらない」という強い否定をしている者が 51.3%と約半数を占めており、「あまりあてはまらない」とあわせると 89.2%と９割があてはまらないと回答していた。しかし逆に、約１割の者があてはまると回答している結果となった。

「いまの生活はつらいことのほうが多い」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 47.5%と約半数を占めており、「まったくあてはまらない」とあわせると 80.2%と約８割があてはまらないと回答していた。逆に、約２割の者があてはまると回答している結果となった。

「いろんなプレッシャーに押しつぶされるような気持ちになる」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 37.9%、ついで「だいたいあてはまる」が 31.6%、「まったくあてはまらない」21.8%、「とてもあてはまる」が 10.6%とつづく。あてはまらないと回答した者の割合をあわせると 59.7%、あてはまると回答した者の割合をあわせると 42.2%となっており、学生たちが日常において、何らかのプレッシャーを感じながら生活している様子がうかがえる。

「ありのままの自分を誰も認めてくれない」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 49.6%と約半数を占め、ついで「まったくあてはまらない」が 40.8%となっており、約９割があてはまらないと回答している。逆に、約１割の者があてはまると回答している結果となった。

「これ以上何をがんばればいいのだと思うことがある」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 41.1%、ついで「まったくあてはまらない」が 34.0%と、あてはまらないと回答した者の割合は 79.8%であった。逆に、約 2 割の者があてはまると回答している結果となった。

さいごに、「将来にまったく希望が持てない」かどうかについては、「あまりあてはまらない」が 40.7%ともっとも多く、ついで「まったくあてはまらない」が 34.0%であった。逆に、「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した者をあわせると 25.3%で、約４人に１人があてはまると回答しているという結果となった。

８つの項目いずれについても、「あてはまらない」という否定的な回答の割合が高いものの、すべての項目について、肯定的な回答をした者、つまり何らかの生きづらさを感じている者が 10%から 25%程度存在していることが明らかになった。

表２－２－２７　「生きづらさ」

(%)

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまりあて<br>はまらない | まったくあて<br>はまらない |
|---|---|---|---|---|
| 「生きているのはつらい」とか「消えてしまいたい」と思うことがある (n=1085) | 7.3 | 18.2 | 40.8 | 33.6 |
| どこにも自分の居場所がないような気がする (n=1086) | 4.9 | 14.9 | 47.7 | 32.5 |
| 自分なんかこの世に生まれてこなければ良かったと思う (n=1086) | 2.8 | 8.0 | 37.9 | 51.3 |
| いまの生活はつらいことのほうが多い (n=1085) | 3.8 | 15.6 | 47.5 | 33.2 |
| いろんなプレッシャーに押しつぶされるような気持ちになる (n=1086) | 10.6 | 31.6 | 36.0 | 21.8 |
| ありのままの自分を、誰も認めてくれない (n=1084) | 2.5 | 7.1 | 49.6 | 40.8 |
| これ以上何をがんばればいいのだ、と思うことがある (n=1084) | 5.4 | 14.9 | 41.1 | 38.7 |
| 将来に、まったく希望が持てない (n=1086) | 6.7 | 18.6 | 40.7 | 34.0 |

４）自尊感情

ローゼンバーグの自尊感情尺度を用いて、学生の自分自身に対する評価についてたずねた。自尊感情尺度の１０項目の問いに対し、「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の５件法で回答を求めた結果を表２－２－２８に示す。

「少なくとも人並みには価値のある人間である」という問いに対して、「ややあてはまる」と回答した者の割合が 42.6%ともっとも高く、ついで「どちらともいえない」37.8%という結果となった。

「いろいろな良い素質を持っている」については、「どちらともいえない」が 41.0%ともっとも高く、ついで「ややあてはまる」が 34.1%となっている。

「敗北者だと思うことがある」については、「あてはまる」と回答した者の割合が 31.8%ともっとも高く、ついで「ややあてはまる」が 27.1%となっており、約６割の学生が自分のことを敗北者だと感じている様子がうかがえる。

「物事を人並みにはうまくやれる」については、「ややあてはまる」が 48.6%と約半数を占めており、ついで「どちらともいえない」が 25.4%とつづいている。

「自分には自慢できるところがあまりない」については、「どちらともいえない」と回答した者の割合が 35.0%ともっとも高く、ついで「ややあてはまる」が 27.2%、「あてはまる」が 21.1%となっており、約５割の学生が自分には自慢できるところがないと感じている結果となった。

「自分に対して肯定的である」については、「どちらともいえない」が 41.1%ともっとも高く、ついで「ややあてはまる」が 26.9%、「ややあてはまらない」が 21.0%とつづいており、肯定、否定の割合はほぼ同じであった。

「だいたいにおいて自分に満足している」については、「どちらともいえない」が 30.4%、「ややあてはまる」が 28.0%、「ややあてはまらない」が 27.4%となっており、自分に対する満足度についても、肯定、否定の割合はほぼ同じであった。

「もっと自分自身を尊敬できるようになりたい」については、「どちらともいえない」が 41.9%ともっとも高く、ついで「ややあてはまらない」が 35.2%であった。

「自分は全くダメな人間だと思うことがある」については、「どちらともいえない」が 34.9%、ついで「ややあてはまる」が 20.0%、「あてはまる」が 19.4%とつづいており、約４割の学生が自分はダメな人間だと感じている結果となった。

さいごに、「何かにつけて自分は役に立たない人間だと思う」については、「ややあてはまる」と回答した割合が 30.7%ともっとも高く、ついで「あてはまる」が 24.4%、「どちらともいえない」が 24.2%とつづいている。約６割弱の学生が自分は役に立たない人間であると自己評価している結果となった。

総じて、「どちらともいえない」という回答が多いという傾向にあったが、その中において、「物事を人並みにはやれる」と自分に対して肯定的評価をしている者が半数いる一方で、「敗北者だと思う」「自慢できるところがない」「ダメな人間だ」「役にたた

ない」といった項目に見られるように、約半数の学生が自分に対して否定的な評価を下しているという様相が明らかになった。

表２－２－２８　「自尊感情」

（%）

| | あてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | ややあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|
| 少なくとも人並みには、価値のある人間である　(n=1083) | 9.7 | 42.6 | 37.8 | 7.8 | 2.2 |
| いろいろな良い素質を持っている　(n=1081) | 6.5 | 34.1 | 41.0 | 14.2 | 4.3 |
| 敗北者だと思うことがある　(n=1083) | 31.8 | 27.1 | 20.9 | 5.1 | 15.1 |
| 物事を人並みにはうまくやれる　(n=1083) | 7.4 | 48.6 | 25.4 | 15.1 | 3.6 |
| 自分には自慢できるところがあまりない　(n=1083) | 21.1 | 27.2 | 35.0 | 12.8 | 3.8 |
| 自分に対して肯定的である　(n=1082) | 5.5 | 26.9 | 41.4 | 21.0 | 5.2 |
| だいたいにおいて、自分に満足している　(n=1083) | 6.1 | 28.0 | 30.4 | 27.4 | 8.1 |
| もっと自分自身を尊敬できるようになりたい　(n=1082) | 4.6 | 17.0 | 41.9 | 35.2 | 1.3 |
| 自分は全くダメな人間だと思うことがある　(n=1084) | 19.4 | 20.0 | 34.9 | 18.2 | 7.6 |
| 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う　(n=1083) | 24.4 | 30.7 | 24.2 | 10.7 | 10.1 |

５）心身の状況

さいごに、からだや心の状態について１２項目を設定し、それぞれの項目のような状態があったかどうかを「まったくなかった」「週に１日～２日」「週に３日～４日」「ほとんど毎日」の４件法で回答を求めた結果を表２－２－２９に示す。

「ふだんは何でもないことが煩わしいと感じたこと」があったかどうかをたずねたところ、「週に１日～２日」と回答した割合が 48.2%ともっとも高く、ついで「まったくなかった」が 41.2%という結果であった。

「家族や友人から励ましてもらっても気分が晴れないこと」については、「まったくなかった」と回答した割合が 56.1%と約６割弱を占めている。ついで「週に１日～２

日」が 34.5%という結果であった。

「憂鬱だと感じたこと」については、「週に１日～２日」が 48.1%と約半数を占め、ついで「まったくなかった」が 22.0%、「週に３日～４日」が 20.4%とつづいている。

「物事に集中できなかったこと」については、「週に１日～２日」と回答した割合が 51.8%と約半数を占めており、ついで「週に３日～４日」が 23.6%とつづいている。

「食欲が落ちたこと」については、「まったくなかった」と回答した割合が 74.7%と約７割強を占めていた。

「何をするのにも面倒だと感じたこと」については、「週に１日～２日」が 44.3%、ついで「週に３日～４日」が 22.7%となっている。「ほとんど毎日」と回答した割合が 12.9%となっており、心身の状況をたずねた１２項目の中で、「ほとんど毎日」という回答の割合がもっとも高かった。

「何か恐ろしい気がしたこと」については、「まったくなかった」と回答した割合が 69.8%と約７割弱を占めている。

「なかなか眠れなかったこと」については、「まったくなかった」と回答した割合が 64.6%ともっとも高く、ついで「週に１日～２日」が 22.0%とつづいている。

「ふだんより口数が少なくなったこと」については、「まったくなかった」と回答した割合が 61.0%ともっとも高く、ついで「週に１日～２日」が 31.3%とつづいている。

「一人ぼっちで寂しいと感じたこと」については、「まったくなかった」と回答した割合が 54.6%ともっとも高く、ついで「週に１日～２日」が 31.5%とつづいている。

「『毎日が楽しい』と感じたこと」については、「週に１日～２日」と回答した割合が 37.8%ともっとも高く、ついで「週に３日～４日」が 30.6%、「ほとんど毎日」が 18.9%であった。

さいごに「悲しいと感じたこと」については、「週に１日～２日」と回答した者の割合が 45.5%ともっとも高く、つづいて「まったくなかった」が 40.8%であった。

心身の状況については、「憂鬱だと感じたこと」「物事に集中できなかったこと」「何をするのも面倒だと感じたこと」などの項目について、比較的高い頻度で感じるという回答がみられた。

表２－２－２９　心身の状況（最近１週間）

（%）

| | まったくなかった | 週に１日～２日 | 週に３日～４日 | ほとんど毎日 |
|---|---|---|---|---|
| ふだんは何でもないことが煩わしいと感じたこと (n=1080) | 41.2 | 48.3 | 7.8 | 2.7 |
| 家族や友人から励ましてもらっても気分が晴れないこと (n=1083) | 56.1 | 34.5 | 6.6 | 2.7 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 憂鬱だと感じたこと (n=1086) | 22.0 | 48.1 | 20.4 | 9.5 |
| 物事に集中できなかったこと (n=1081) | 16.4 | 51.8 | 23.6 | 8.2 |
| 食欲が落ちたこと (n=1081) | 74.7 | 19.3 | 4.4 | 1.5 |
| 何をするのも面倒だと感じたこと (n=1082) | 20.1 | 44.3 | 22.7 | 12.9 |
| 何か恐ろしい気がしたこと (n=1081) | 69.8 | 22.1 | 5.7 | 2.4 |
| なかなか眠れなかったこと (n=1082) | 64.6 | 22.0 | 9.7 | 3.7 |
| ふだんより口数が少なくなったこと (n=1079) | 61.0 | 31.3 | 6.0 | 1.7 |
| 一人ぼっちで寂しいと感じたこと (n=1081) | 54.6 | 31.5 | 9.8 | 4.2 |
| 「毎日が楽しい」と感じたこと (n=1077) | 12.6 | 37.8 | 30.6 | 18.9 |
| 悲しいと感じたこと (n=1080) | 40.8 | 45.5 | 10.0 | 3.7 |

（６）まとめ

○調査対象者の約８割は自宅通学者であり、６割以上が核家族、約３割が拡大家族であった。父母の最終学歴は、父親は大学がもっとも多く、母親は高等学校がもっとも多かった。母親の職業経歴は「結婚・出産で中断、パートで再就職」がもっとも多かった。

○家庭の経済状況について、ゆとりがあると感じている者が６割以上いる一方で、約３人に１人が苦しいと感じていることがわかつた。家族からの金銭的援助については、ほぼ半数が充分に足りていると感じているが、足りないと感じている者や受けていない者もほぼ半数みられた。足りないと感じている学生の９割近くが「アルバイト」によって不足分を補っていた。また、３割弱の学生が奨学金で生活費を補充している現状がうかがえた。大学の学費については、９割近くの者がおもに保護者に負担してもらっており、親の学費負担の重さがうかがえた。アルバイトについてたずねたところ、約８割の者が現在アルバイトをしていると回答し、その目的の１番目は「小遣い」のためであったが、「生活費」と回答した者も約４割みられた。平均収入（月収）は「３

万円以上５万円未満」の者がもっとも多かった。
〇奨学金の受給状況については、約４割の学生が奨学金を受給しており、約半数の者が奨学金の必要性を感じていることが明らかになった。親が借りている教育ローンについては、把握していないものが多く、何らかの教育ローンを借りていると回答した者は少なかった。
奨学金や教育ローンを受給している者の約７割が将来の返済に対して不安を抱えており、将来の返済について相談できる機関の必要性が感じられた。
〇家族からの将来への期待は、就職に対しては高かったが、結婚、出産に対しては期待はあるものの就職ほど強い期待はみられず、扶養、自立に対してはさほど期待されていない様子がうかがえた。性役割意識に関する項目については、肯定と否定がほぼ半数ずつであった。家族関係に関する項目では、良好な親子関係がうかがえたが、８割以上の者が、「自分のことで家族をがっかりさせたくない」と思っていることから、家族の期待にこたえたいと考えていると様子がうかがえた。
〇両親の役割分担は「父母ともに仕事をし、おもに母が家事育児を行う」という新・性別役割分業型がもっとも多く、ついで専業主婦型が多くみられた。「父母ともに仕事も家事育児も」という男女共同参画型は１割強であった。
〇生活全般、家庭生活、学校生活、同性との交友関係において、満足していると回答した者の割合が高く、本調査対象者の生活満足度の高さがうかがえた。自立についての自己評価は、約８割が経済的に自立していない、約６割が精神的に自立していないとしており、女子大学生の自立度の低さがうかがえた。
〇女子大学生の理想のライフコースは、「結婚・出産で中断、子育て後に再就職」がもっとも多く、ついで「結婚・出産し、仕事も継続」が多い結果となり、結婚・出産後も就労する意欲が高いことが示された。理想といる夫婦の役割分担のあり方として、「夫妻ともに仕事も、家事育児も」という男女共同参画型の役割分担を選んだものがもっとも多かった。
〇卒業後の進路については、約９割が就職すると考えており、就職先に求める条件として、８割以上の者が重視すると回答した項目は、高い順に、「福利厚生が整っていること」「自分の能力や個性が生かせること」「給料が高いこと」「休みが多いこと」であった。
〇最近、いちばん悩んでいることは、「将来の進路や就職」が約半数ともっとも多く、ついで「自分の性格や能力」「勉学」といった悩みがつづいた。しかし、それ以外の容姿や生活費、人間関係といった項目については比較的数値が低く、女子大学生にとって、就職や進路といった問題がいちばんの悩み事である様子がうかがえる。悩みの相談相手については、同性の友だちが約半数ともっとも多く選ばれており、親がつづいて多くなっている。悩み事があっても誰にも相談しない学生が約１割程度いることが分かった。また、相談相手として同性の友だちと親以外が選ばれることはほとんどな

く、相談相手が同性の友だちと親に限定されている点が明らかになった。
〇学生生活を送るうえで満足度をたずねたところ、学生生活のサポート体制、教員との関係、就職のサポート体制、大学周辺の環境のすべての項目で、満足よりも不満が高い結果となり、学生生活に不満を感じながら生活をしている様相の一端が明らかとなった。
〇生活していくうえでの「生きづらさ」の感知についてみたところ、とくに「生きているのはつらい」とか「消えてしまいたい」といった消滅願望や、将来に希望が持てないというつらさを感じている学生は４人に１人、プレッシャーに押しつぶされるような感じを抱いている学生は５人に２人、居場所がない、いまの生活はつらいことが多い、これ以上がんばれないといったつらさを感じている学生は５人に１人程度おり、さまざまな生きづらさを感じながら生活している様子がうかがえる。
〇自分自身に対する評価については、「人並みには価値のある人間である」や「人並みにはうまくやれる」といった項目については肯定的な評価をしている割合が高いものの、「敗北者だと思う」「自慢できるところがない」「ダメな人間だと思う」「役に立たない」といった項目について、自分を否定的に評価している割合が高い。「人並み」にはできているが、それ以上には、肯定的に自己評価できていないという結果がみえてきた。
〇心身の状況についてたずねたところ、「憂鬱だと感じる」「物事に集中できない」「何をするのも面倒」といった項目について、週に３日～４日、ほとんど毎日といった具合に、高い頻度で不調を感じるという回答がみられた。

## 第３章 公立共学大学生調査

### １．調査概要

A 大学を対象に奨学金貸与と返済に関するアンケート調査を行い、分析する。アンケート調査は、2013 年 12 月に A 大学の学生（1～3 年生）への集合調査として行った。（配布数：631、回収数 614、回収率 97.3%）。各授業後に学生に教室に残るよう依頼し、筆者（正保）が各教室にて、インフォームドコンセントを行った後、回答を得た。

全学生約 750 名のうち必修科目受講者全体（614 名）を母集団とした。

回答者の年齢は、18 歳 66 名（10.7%）、19 歳 188 名（30.6%）、20 歳 197 名（32.1%）、21 歳 128 名（20.8%）22 歳 8 名（1.3%）、23 歳 1 名（0.2%）、26 歳 1 名（0.2%）の 589 名（無回答 25）であった。

学年は、1 年 188 名（30.6%）、2 年 226 名（36.8%）、3 年 176 名（28.7%）の 590 名（無回答 24 名）であった。

アンケートの内容は、基本的属性、奨学金返済の不安、将来の暮らし向きへの見通し、現在の家族経済資源（11 項目）、学生個人の資源（23 項目）、家族関係資源（12 項目）、大学の相談機関への相談である。

### ２．調査結果

（１）調査対象者の属性

１）居住形態

学生の居住形態について、５つの選択肢から回答を求めた。中国地方からの通学者が約 40%、寮がないため、残りの約 60%がアパートなどに住んでいる。

表３－２－１　居住形態

n=605,（%）

| 自宅通学 | 寮 | アパートなど | 食事付き下宿 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 41.7 | 0 | 57.7 | 0.3 | 0.3 |

２）家族構成

家族構成を知るために、「父」「母」「きょうだい」「祖父」「祖母」「その他」から当

てはまる人すべてを選択してもらい、「核家族」(「父母」「母」「父」)、「拡大家族」、「その他」に分類した。核家族が約 59%であり、拡大家族が 35%である。母ひとり親、父ひとり親がそれぞれ 3%、0.7%となっている。

表３－２－２　家族構成

n=597,（%）

| 核家族 | | | 拡大家族 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 父母 | 母 | 父 | | |
| 59.3 | 3.0 | 0.5 | 35.0 | 2.0 |

３）父親・母親の最終学歴

父親の最終学歴、母親の最終学歴について、表３－２－３、表３－２－４に示す。父親の学歴は、大卒が半数を超えて約 51%、高卒が約 37%、次いで専門学校約 4%、短大・高専約 4%となっている。

表３－２－３　父親の最終学歴

n=532,（%）

| 中学校 | 高等学校 | 短大／高専 | 専門学校 | 大学 | 大学院 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.9 | 36.7 | 3.8 | 4.3 | 51.3 | 1.9 | 1.0 |

母親の方は、父親とは逆に高卒が約 37%と最も高く、次いで短大・高専が約 29%、大卒が約 22%となっている。

表３－２－４　母親の最終学歴

n=559,（%）

| 中学校 | 高等学校 | 短大／高専 | 専門学校 | 大学 | 大学院 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.7 | 36.5 | 29.2 | 11.5 | 21.5 | 0.4 | 0.4 |

４）母親の職業経歴

母親の職業経歴について、６つの選択肢から回答を求めた。その結果、表３－２－５に示すように、最も多いのが「結婚・出産を機に就業を退職し、その後は仕事を持っていない母親が約 52%となっている。次いで、専業主婦の約 29%で、「結婚・出産を機に就業を中断し､子どもがある程度大きくなってから再びパートで働いている」が約 12%であった。

結婚・出産に関わらず、仕事を継続している母親はきわめて少なく、約 1%である。半数以上は結婚・出産を機に就業を中断おり、中断後の就職ではパートでの就労

が多かった。

表３－２－５　母親の職業経歴

n=566,（%）

| | |
|---|---|
| 結婚前から現在まで仕事を続けている | 1.4 |
| 結婚・出産を機に就業を中断し、子どもがある程度大きくなってから再び仕事を持った | 12.0 |
| 結婚・出産を機に就業を退職し、その後は仕事を持っていない | 52.3 |
| 結婚前から現在まで専業主婦である | 29.0 |
| その他 | 5.3 |

（２）経済状況とアルバイト

１）家計の状況

家庭の経済状況を知るため、家計の状況について、「ゆとりがある」「どちらかといえばゆとりがある」「どちらかといえば苦しい」「苦しい」の４件法で回答を求めた。「ゆとりがある」「どちらかといえばゆとりがある」を足すと約 65%となり、「苦しい」「どちらかといえば苦しい」を足すと約 34%となっている。

表３－２－６　家計の状況

n=594,（%）

| | |
|---|---|
| ゆとりがある | 15.2 |
| どちらかといえばゆとりがある | 50.2 |
| どちらかといえば苦しい | 27.9 |
| 苦しい | 6.7 |

２）生活費の状況

家からもらうお金（家族からの金銭的援助）について、「充分足りている」「若干足りていない」「まったく足りていない」「受けていない」の４件法で回答を求めた。家族からの金銭援助については、充分足りているというものが約 46%であるのに対して、若干足りないものが約 26%となっている。次いで受けていないものが 22%に上ることも公立大学の特徴といえるのではないか。

表３－２－７　家族からの金銭的援助

n=590,（%）

| | |
|---|---|
| 充分足りている | 46.3 |
| 若干足りない | 26.1 |
| まったく足りない | 5.6 |
| 受けていない | 22.0 |

家族からの金銭的援助について、「若干足りていない」「まったく足りていない」「受けていない」と回答した者に対して、生活費の不足分を何で補っているか、複数回答で回答を求めた。
結果は表３－２－８のとおりである。アルバイトが最も多く約 89%であるが、奨学金が約 53%に上っているのも特徴的である。この数字の多さより、奨学金返済の問題に取り組んだ経緯がある。

表３－２－８　生活費の補充（M.A.）

n=312,（%）

| | |
|---|---|
| アルバイト | 88.5 |
| 奨学金 | 52.6 |
| 親類など家族以外からの援助 | 5.1 |
| その他 | 1.9 |

３）大学の学費負担者

大学にかかる経費の負担者について「おもに保護者」「保護者と自分の負担は半分ずつ」「おもに自分」「その他」から選択を求めた。学費負担者は、主に保護者が約 88%で最も多いが、おもに自分と答えたものも 5%に上る。

表３－２－９　大学の学費負担者

n=1078,（%）

| | |
|---|---|
| おもに保護者 | 88.4 |
| 保護者と自分の負担は半分ずつ | 4.5 |
| おもに自分 | 5.0 |
| その他 | 2.0 |

４）アルバイトの状況

アルバイトの状況を知るため、現在のアルバイトの有無、アルバイトの目的（複数

回答)、アルバイトの平均収入（月収）についてたずねた。アルバイトをしているものは、約 80%に上っている。

表３－２－１０　アルバイトの有無

n=599,（%）

| | |
|---|---|
| アルバイトをしている | 79.6 |
| アルバイトをしていない | 18.4 |

そこで、「アルバイトをしている」と回答した者に対し、アルバイトの目的について、７つの選択肢から回答を求めた（複数回答)。結果を表３－２－１１に示す。

複数回答ではあるが、アルバイトの目的は、小遣い稼ぎが最も多く、約 71%、次いで生活費として約 47%となっているが、就職したらできないということで社会勉強のためというものが約 39%となっている。

表３－２－１１　アルバイトの目的（M.A.）

n=486,（%）

| 学費 | 住居費 | 生活費 | 小遣い | 友人づくり | 社会勉強 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 8.8 | 6.2 | 47.2 | 70.7 | 5.7 | 39.1 | 2.3 |

アルバイトによる平均収入（月収）について、「３万円未満」「３万円以上５万円未満」「５万円以上７万円未満」「７万円以上１０万円未満」「１０万円以上」から選択を求めた。アルバイトの平均収入については、3～5 万円との答えが最も多く約 38%であった。次いで 5～7 万円が約 31%であるが、10 万以上も約 3%となっており、学習のための時間が確保されているのか、という問題も浮上する。

表３－２－１２　アルバイトの平均収入（月収）

n=484,（%）

| | |
|---|---|
| ３万円未満 | 11.4 |
| ３万円以上５万円未満 | 37.8 |
| ５万円以上７万円未満 | 31.0 |
| ７万円以上１０万円未満 | 16.7 |
| １０万円以上 | 3.1 |

５）奨学金・教育ローンの受給状況

奨学金の受給状況を知るため、受給状況について７つの選択肢から回答を求めた。奨

学金の受給状況については、日本学生支援機構の奨学金をもらっているものが約 52%となっており、日本学生支援機構以外の奨学金をもらっているものが約 2%である。

表３－２－１３　奨学金の受給状況（M.A.）

n=576,（%）

| | |
|---|---|
| 日本学生支援機構の奨学金（第一種・第二種）をもらっている | 51.7 |
| 日本学生支援機構以外の奨学金をもらっている | 2.4 |
| 奨学金を申請したがもらえなかった | 1.4 |
| 奨学金をもらいたいが申請しなかった | 6.9 |
| 奨学金をもらう必要性を感じなかった | 36.1 |
| 以前は奨学金をもらっていたが、今はもらっていない | 0.9 |
| その他 | 2.1 |

つぎに、親が借りている教育ローンの状況について、５つの選択肢から回答を求めた。教育ローンの受給状況は、最も多いのが「わからない」というもので約 63%、借りていないというものが約 30%に上るほかは、国の教育ローンが約 5%という結果であった。

表３－２－１４　教育ローンの借入状況

n=570,（%）

| | |
|---|---|
| 国の教育ローン（日本政策金融公庫・郵貯貸付・年金教育貸付）を借りている | 5.1 |
| 民間金融機関からローンを借りている | 1.9 |
| 大学から教育ローンを借りている | 0.2 |
| どこからも教育ローンを借りていない | 30.4 |
| わからない | 62.6 |

将来、返済が必要な奨学金や教育ローンを受給している（過去に受給していた）者に、奨学金や教育ローンの返済の不安について、「大いに不安である」「多少不安である」「あまり不安ではない」「まったく不安はない」の４件法で回答を求めた。
奨学金等の返済不安については、大いに不安と多少不安を足すと 76%にも上り、返済不安が大きいことを伺わせる。

表３－２－１５　奨学金や教育ローンの返済不安

n=334,（%）

| | |
|---|---|
| 大いに不安である | 26.6 |
| 多少不安である | 49.4 |
| あまり不安はない | 16.4 |
| まったく不安はない | 7.5 |

６）将来の暮らし向きの見通し

将来の暮らし向きの見通しについて、「ゆとりがある」「どちらかといえばゆとりがある」「どちらかといえば苦しい」「苦しい」の４件法で回答を求めた。将来の暮らし向きの見通しとして、「ゆとりがある」と「どちらかといえばゆとりがある」を足したものが約 52%となっており、苦しいイメージとは拮抗しているといえる。

表３－２－１６　将来の暮らし向きの見通し

n=571,（%）

| | |
|---|---|
| ゆとりがある | 7.5 |
| どちらかといえばゆとりがある | 44.8 |
| どちらかといえば苦しい | 39.4 |
| 苦しい | 8.6 |

（３）家族関係

１）家族との関係

家族との関係について１１項目を設定し、「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の４件法で回答を求めた。その結果を表３－２－１７に示す。

質問項目の中で最も強いものは、「自分のことで家族をがっかりさせたくない」（「とてもあてはまる」と「だいたいあてはまる」をたすと約 88%）と就職するようにいわれている（「とてもあてはまる」と「だいたいあてはまる」をたすと約 86%）であることがわかる。ついで、「家族は自分の気持ちわかってくれている」（「とてもあてはまる」と「だいたいあてはまる」をたすと約 78%）であり、家族とはおおむね良好な関係にあることがわかった。

表３－２－１７　家族との関係

（

%）

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまりあて<br>はまらない | まったくあて<br>はまらない |
|---|---|---|---|---|
| 家族から、卒業後は就職するようにいわれる (n=597) | 57.5 | 28.8 | 7.4 | 6.7 |
| 家族から、将来結婚するようにいわれる (n=592) | 22.0 | 33.4 | 29.1 | 15.5 |
| 家族から、将来子どもを産むようにいわれる (n=585) | 17.4 | 28.5 | 34.2 | 19.8 |
| 家族から、将来面倒をみてほしいといわれる (n=587) | 7.0 | 19.3 | 46.0 | 27.8 |
| 困ったことがあっても、家族には話せないことが多い (n=589) | 8.7 | 21.6 | 48.7 | 21.1 |
| 家族は自分の気持ちをよくわかってくれる (n=589) | 23.6 | 54.3 | 18.3 | 3.7 |
| 自分のことで家族をがっかりさせたくない (n=597) | 44.2 | 43.7 | 9.0 | 3.2 |
| 家族は、女も外に出て働くべきだと考えている (n=583) | 14.6 | 40.1 | 33.4 | 11.8 |
| 家族は、女は結婚し、子どもを産むべきだと考えている (n=578) | 9.0 | 23.7 | 47.2 | 20.1 |
| 家族は、女は結婚したら家事や育児をするべきだと考えている (n=579) | 6.2 | 28.0 | 45.3 | 20.6 |
| 家族から、早く家を出て自立するようにいわれる (n=584) | 9.6 | 19.9 | 44.5 | 26.0 |

２）両親の役割分担

両親の家での役割分担についてたずねる問いを設定し、５つの選択肢から回答を求めた。

両親の役割分担については、「両親仕事・母家事育児」というパターンが最も多く、約 51%である。次に「父仕事・母家事育児」というパターンが約 21%で、「おもに母が家事育児」のパターンが約 72%にも上っていることがわかった。

表３－２－１８　両親の役割分担

n=556, （%）

| | |
|---|---|
| お父さんが仕事をし、お母さんが家事育児を行う | 20.7 |

| | |
|---|---|
| お父さんお母さんともに仕事をし、おもにお母さんが家事育児を行う | 51.4 |
| お父さんお母さんともに仕事をし、お父さんお母さんともに家事育児を行う | 18.0 |
| お父さんお母さんともに仕事をし、おもにあなたや祖父母など他の家族員が家事育児を行う | 4.0 |
| その他 | 5.9 |

（４）生活意識と将来展望

１）生活に対する意識

日常生活に対する意識や将来設計について１２の設問を設定し、それぞれの項目について「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の４件法で回答を求めた。その結果を表３－２－１９に示す。生活に対する意識としては、質問項目の中で「同性との交友関係に満足している」が「とてもあてはまる」と「だいたいあてはまる」を足すと約 88%と最も高く、次いで「日常生活全般に満足している」ものが足して約 81%となっている。また、共学のためか「異性との交友関係に満足している」ものも足して 66%が満足と答えている。

表３－２－１９　生活に対する意識

（%）

| | とてもあてはまる | だいたいあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|---|---|---|---|---|
| 日常生活全般に満足している (n=590) | 20.7 | 59.8 | 16.1 | 3.4 |
| いまの自分は経済的に自立している (n=590) | 5.4 | 19.0 | 38.8 | 36.8 |
| いまの自分は精神的に自立している (n=589) | 8.7 | 39.4 | 43.0 | 9.0 |
| 自分にはかなえたい夢や将来の希望がある (n=594) | 25.1 | 41.8 | 24.7 | 8.4 |
| 早く、親から離れて生活したい (n=592) | 18.9 | 43.2 | 33.4 | 4.4 |
| 家庭生活に満足している (n=593) | 26.8 | 55.0 | 15.5 | 2.7 |
| 学校生活に満足している (n=592) | 19.6 | 53.2 | 21.8 | 5.9 |
| 同性との交友関係に満足している | 31.2 | 56.9 | 9.8 | 2.0 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| (n=590) | | | | |
| 異性との交友関係に満足している (n=589) | 17.8 | 48.0 | 26.3 | 7.8 |
| 就職活動に力を入れている (n=586) | 4.8 | 20.6 | 50.3 | 24.2 |
| 結婚のための活動（婚活）に力を入れている (n=583) | 2.6 | 7.7 | 32.1 | 57.6 |
| 将来に向けた資格・技能の習得に力を入れている (n=585) | 9.1 | 35.2 | 41.7 | 14.0 |

２）理想のライフコース

理想のライフコースをたずねる問いを設定し、６つの選択肢から回答を求めた。

その結果、表３－２－２０に示すように、理想のライフコースは、「結婚し、子どもをもつが、仕事も続ける」が最も多く、約 57%であった。共学ということで女子大学とは違う傾向となっている。

表３－２－２０　理想のライフコース

n=585, （%）

| | |
|---|---|
| 結婚せず、仕事を続ける | 8.7 |
| 結婚するが、子どもはもたず、仕事を続ける | 3.2 |
| 結婚し、子どもをもつが、仕事も続ける | 56.9 |
| 結婚し、子どもをもつが、結婚あるいは出産を機にいったん退職し、子育て後ふたたび仕事をもつ | 25.8 |
| 結婚し、子どもをもち、結婚あるいは出産を機にいったん退職し、その後は仕事をもたない | 4.8 |
| 結婚から、ずっと仕事をもたない | 0.5 |

３）理想の役割分担

「将来、家庭をもつと仮定したときに、あなたの理想とする夫婦の役割分担のあり方としていちばん近いと思うものに〇をつけてください」という問いを設定し、５つの選択肢から回答を求めた。

その結果、表３－２－２１に示すように、理想の役割分担は、先にあげた両親の役

割分担とは違って、約 69％と圧倒的に「夫も妻も仕事も家庭も」というスタイルを挙げている。この理想がかなうかどうか、これからの社会の受け皿と本人たちの努力が必要とされる。

表３－２－２１　理想の役割分担

n=581,（％）

| | |
|---|---|
| 夫が仕事をし、妻が家事育児を行う | 15.3 |
| 夫、妻ともに仕事をし、おもに妻が家事育児を行う | 12.0 |
| 夫、妻ともに仕事をし、夫、妻ともに家事育児を行う | 69.4 |
| 夫、妻ともに仕事をし、おもに祖父母など他の家族員が家事育児を行う | 1.5 |
| その他 | 1.7 |

４）卒業後の進路

大学卒業後の進路について、「就職する」「大学院に進学する」「専門学校に進学する」「就職も進学もしない」「まだ決めていない」の５つの選択肢を設け、その中からひとつ選んでもらった。

その結果、表３－２－２２に示すように、卒業後の進路については、約 89％が就職と答えているが、まだ決めていないものが約 9％おり、3 年生までの調査であるためか迷っているものも少なくない。

表３－２－２２　卒業後の進路

n=592,（％）

| | |
|---|---|
| 就職する | 88.9 |
| 大学院に進学する | 1.9 |
| 専門学校に進学する | 0.2 |
| 就職も進学もしない | 0.5 |
| まだ決めていない | 8.6 |

５）就職先に求める条件

就職先に求める条件について、７項目を設定し、それぞれの項目についてどの程度重視するかを「とても重視する」「まあ重視する」あまり重視しない」「まったく重視しない」の４件法で回答を求めた。

就職先に求める条件については、質問項目のうち、「とても重視する」「まあ重視する」を足してもっとも多いものは、「福利厚生が整っていること」であり、約 95％で

あった。次には、「自分の能力や個性が生かせること」で訳 90%となっていた。

表３－２－２３　就職先に求める条件

（

| | とても重視する | まあ重視する | あまり重視しない | まったく重視しない |
|---|---|---|---|---|
| 自分の能力や個性が生かせること (n=589) | 40.1 | 53.0 | 6.1 | 0.8 |
| 大学時代に身につけた知識や技術が生かせること (n=588) | 20.4 | 52.2 | 23.6 | 3.7 |
| 給料が高いこと (n=586) | 23.7 | 64.3 | 11.3 | 0.7 |
| 休みが多いこと (n=586) | 20.8 | 58.7 | 18.9 | 1.5 |
| 知名度が高い会社であること (n=585) | 6.5 | 25.5 | 55.4 | 13.5 |
| 親元から近いこと (n=584) | 11.5 | 35.6 | 39.4 | 13.4 |
| 結婚しても働き続けられること (n=585) | 29.2 | 52.5 | 15.6 | 2.7 |
| 福利厚生が整っていること (n=586) | 49.0 | 46.2 | 3.8 | 1.0 |

（５）最近の生活状況

１）悩み事

「あなたが、最近、いちばん悩んでいることは何ですか」という問いに対し、「自分の容姿」「勉学」「将来の進路や就職」「自分の性格や能力」「学費や生活費」「友人関係」「恋愛関係」家族関係」「その他」「とくにない」という１０の選択肢を設け、その中からひとつ選んでもらった。

その結果、表３－２－２４に示すように、悩み事については、最も多いのが「将来の進路や就職」であり、約 43%となっている。次いで、自分の性格や能力が約 16%であった。逆に悩みがないと答えたものが約 10%となっている。

表３－２－２４　　最近、いちばん悩んでいること

n=584,（%）

| | |
|---|---|
| 自分の容姿 | 6.5 |
| 勉学 | 8.9 |
| 将来の進路や就職 | 43.0 |
| 自分の性格や能力 | 16.8 |
| 学費や生活費 | 4.1 |
| 友人関係 | 2.2 |
| 恋愛関係 | 5.8 |
| 家族関係 | 1.0 |
| その他 | 1.5 |
| とくにない | 10.1 |

２）相談相手

つづいて、悩みの相談相手について、「あなたがその悩みをもっともよく相談する相手は誰ですか」という問いを設定し、「同性の友だち」「異性の友だち」「恋人」「きょうだい」「祖父母」「学校の先生」「サークルの人」「アルバイト先の人」「ネット上のブログ、プロフなど」「就職指導部や学生部など大学の相談機関」「カウンセラー」「その他」「誰にも相談しない」という１４の選択肢を設け、その中からひとつを選んでもらった。

その結果、表３－２－２５に示すように、悩みを相談する相手で最も多いのが、「同性の友人」であり、約 55%となっている。次いでは親が約 16%で、身近な人に相談するケースが多いことが分かった。誰にも相談しないものも約 12%と、一人で抱えているケースが多いこともわかった。

表３－２－２５　悩みを相談する相手

n=521,（%）

| | |
|---|---|
| 同性の友だち | 55.3 |
| 異性の友だち | 2.7 |
| 恋人 | 4.6 |
| 親 | 15.7 |
| きょうだい | 2.5 |
| 祖父母 | 0.2 |
| 学校の先生 | 1.7 |
| サークルの人 | 0.2 |

| | |
|---|---|
| アルバイト先の人 | 2.1 |
| ネット上のブログ、プロフなど | 1.0 |
| 就職指導部や学生部などの大学相談機関 | 1.3 |
| カウンセラー | 0.4 |
| その他 | 0.2 |
| だれにも相談しない | 12.1 |

## ３．まとめ

本調査においては、「大学生の生活環境と将来設計についての調査」と題して、公立共学大学へのアンケートを行ったが、その意識には、以下の特徴が垣間見えたように思われる。

① 地方公立大ということもあり、経済的に困難を抱えた学生が相対的に高く、よって奨学金の貸与者が 52%にも上っていた。

② 合わせて、奨学金返還に対しる不安を持っている学生が貸与者の３／４にも上っていた。

③ 物的環境・人的環境が整っていく途上にあり、様々な課題が明らかになった。

④ 大学生の将来設計については、「進路・就職の悩み」を抱えるものが 43%と高いことがわかった。

⑤ 家族資源については、おおむね良好なものが多く、家族の期待に応えることが大切であると認識している学生が多かった。

以上の中で、各学生の問題を解消していくべく、あるいは寄り添いながら、大学の役割を改めて検討していく必要性が明らかになった。

## 第４章　研究成果と家族生活教育

### １．報告会の目的・方法

家族生活教育の目的はArcuss&Thoms(1993)は下記のように説明している。

１）自己と他者を洞察する力の獲得

２）人間発達とライフサイクルを通じた家族の行動を学ぶこと

３）結婚と家族類型と家族過程について学ぶこと

４）家族生活についての本質的なスキルを獲得すること

５）現在と未来の役割における家族の可能性を伸ばすこと、

６）家族の強さを増す

本報告会では2012年11月から12月にかけて実施された調査の対象者にこの調査結果を説明し、家族生活教育を行った

Mace（1981）によると家族が成長し変化するためには次のような教育的環境が必要であると言っている。

１）連帯感とコミュニティーの意識を高めるため、一緒にいる十分な時間が必要である。

２）グループの信頼を得ることができるリーダーが必要である。

３）よく開発された理論的枠組みに基づいた情報に基づいたダイナミックな発表が必要である。

４）リーダーの役割演技や、グループの個人的な経験の分かち合いを通して、客観的に出

来事をとらえ、応用できる。

５）資料や課題（配布資料など）によって知識を補強できる

６）個人的な意見を述べたり、意思決定したりすることができる

2014年11月29日に上記のような環境に配慮しつつ､2大学の女子学生17名を対象として調査報告を行った。個人の行動変化を動機づけるためにはどのような段階が必要だろうか？Maceはいくつかの段階を通らなければならないという。**知識の獲得**から（脳に張り付き、思い出すことができる事実の集まり)、**洞察**（どのような知識がその人の個人的生活と状況に適用できるか）や**経験的行動**(何か起こっているか見通せるような個人の行動へ新しい知識を適用できる)、**変化への決意**（行動の変化の決意とこの変化へ適応するために生活を整えること)、**関係の再組織化と受け入れ**（重要

な他者による変化を受け入れその人のサポートをする）という５段階である。

報告会では、次の調査結果（１）、（２）、（３）、（４）を踏まえて、受講した学生にMaceの５段階を経験させた。

## ２．報告会の概要

### （１）．女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

# 女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

○山下美紀[1]・大石美佳[2]・正保正恵[3]・竹田美知[4]
（1 ノートルダム清心女子大学・2 鎌倉女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 目的と方法

**本報告の目 的**
女子大学生が自分自身の生活状況や心身の状態をどのように評価しているのかを明らかにし、家族資本4タイプとの関連を検討する。

◆調査概要
「女子大学生の家族資本とキャリアデザイン」を参照

◆調査内容
- 基本的属性（3項目）; 家族形態、親の学歴、母親の職業経歴
- 家族資本（2項目）
  - ・経済的サポート; 家計のゆとり
  - ・情緒的サポート; 家族からの理解
- 自立度（2項目）; 経済的自立、精神的自立
- 自分に対する評価項目
  - ・生活評価; 「生きづらさ」に関する項目（山下2011：8項目、4件法）
  - ・自己評価; 自尊感情尺度（Rosenberg1965：10項目、5件法）
  - ・心身の状態;自分のからだや心の状態（11項目、4件法）

## 家族資本タイプの結果

Figure1 家族資本タイプ

★ 経済的サポートは「家計にゆとりがあるかどうか」、情緒的サポートは「家族は気持ちをわかってくれるかどうか」の2項目を採用し、各高低群の組み合わせにより4つのタイプが析出された。
★ Figure1に示すように、経済的サポート・情緒的サポートが共に高い《充足型》が50%ともっとも多く、ついで《情緒資本型》、《経済資本型》、《不足型》と続く。

## 結果と考察

Table1 「生きづらさ尺度」平均点および因子分析結果

| 「生きづらさ」に関する項目 | 平均点（SD） |
|---|---|
| いろんなプレッシャーに押しつぶされるような気持ちになる | 2.31（0.93） |
| 「生きているのはつらい」とか「消えてしまいたい」と思うことがある | 1.99（0.90） |
| 将来にまったく希望が持てない | 1.98（0.89） |
| どこにも自分の居場所がないような気がする | 1.92（0.82） |
| いまの生活はつらいことのほうが多い | 1.90（0.79） |
| これ以上、何をがんばればいいのだと、思うことがある | 1.87（0.86） |
| ありのままの自分を、誰も認めてくれない | 1.71（0.71） |
| 自分なんか、この世に生まれてこなければよかったと思う | 1.62（0.75） |
| 信頼性係数=0.908 N=15.31, SD=5.20 | |

★ 女子大学生の「生きづらさ」をみてみると、「プレッシャーに押しつぶされるような気持ち」がもっとも高い。
★ 「生きづらさ」については1因子構造が確認され、加算尺度として使用。
★ 心身の状態については、解釈可能な2因子が抽出され、それぞれ「意欲の衰退」「不安定な精神状態」と命名した。

Table2 心身の状態に関する因子分析結果（主因子法 バリマックス回転）

| 心身の状態に関する項目 | 第1因子 | 第2因子 |
|---|---|---|
| 憂鬱だと感じたこと | 0.698 | 0.329 |
| 何をするのも面倒と感じたこと | 0.638 | 0.219 |
| ふだんは何でもないことが煩わしいと感じたこと | 0.621 | 0.291 |
| 物事に集中できなかったこと | 0.572 | 0.196 |
| 家族や友人から励ましてもらっても気分が晴れないこと | 0.547 | 0.405 |
| 悲しいと感じたこと | 0.423 | 0.557 |
| 何か恐ろしい気がしたこと | 0.334 | 0.524 |
| ふだんより口数が少なくなったこと | 0.313 | 0.515 |
| なかなか眠れなかったこと | 0.093 | 0.446 |
| ひとりぼっちで寂しいと感じたこと | 0.296 | 0.445 |
| 食欲が落ちたこと | 0.122 | 0.317 |
| 寄与率 | 21.88 | 16.29 |
| 累積寄与率 | 21.88 | 38.16 |
| 信頼性係数 | 0.807 | 0.706 |
| 因子解釈 | 意欲の衰退 | 不安定な精神状態 |

Table3 各評価項目と自立度との相関

| | | 自立度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 経済的自立 | | 精神的自立 | |
| 評価項目 | 生きづらさ | -0.051 | | -0.271 | ** |
| | 自尊感情 | -0.111 | ** | -0.174 | ** |
| | 意欲の衰退 | -0.030 | | -0.235 | ** |
| | 不安定な精神状態 | -0.003 | | -0.187 | ** |

**p＜0.01

Table4 各評価項目と家族資源との相関

| | | 家族資源 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 経済的サポート | | 情緒的サポート | |
| 評価項目 | 生きづらさ | -0.148 | ** | -0.305 | ** |
| | 自尊感情 | -0.054 | | -0.053 | |
| | 意欲の衰退 | -0.100 | ** | -0.251 | ** |
| | 不安定な精神状態 | -0.080 | ** | -0.172 | ** |

**p＜0.01

Table5 家族資本タイプ別、各評価項目の平均値および多重比較結果

| | 1. 充足型 | 2. 経済資本型 | 3. 情緒資本型 | 4. 不足型 | 全体 | F値 | | 多重比較の結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生きづらさ | 13.97 | 17.45 | 15.22 | 18.81 | 15.30 | 42.22 | *** | 2, 4>3, 1 |
| | (4.77) | (5.79) | (4.71) | (5.09) | (5.22) | | | 3>1 |
| 自尊感情 | 30.18 | 30.73 | 30.67 | 31.08 | 30.48 | 1.79 | | |
| | (4.71) | (4.83) | (4.25) | (3.85) | (4.53) | | | |
| 心身の状態 | | | | | | | | |
| 意欲の衰退 | 9.45 | 10.86 | 9.69 | 11.89 | 9.98 | 26.90 | *** | 4>3, 2, 1 |
| | (2.85) | (3.55) | (2.67) | (3.42) | (3.09) | | | 2>3, 1 |
| 不安定な精神状態 | 8.75 | 9.81 | 9.08 | 10.22 | 9.15 | 12.27 | *** | 4>3, 1 |
| | (2.52) | (3.58) | (2.65) | (3.18) | (2.84) | | | 2>1 |

上段は平均値，下段は標準偏差 ***p＜0.001

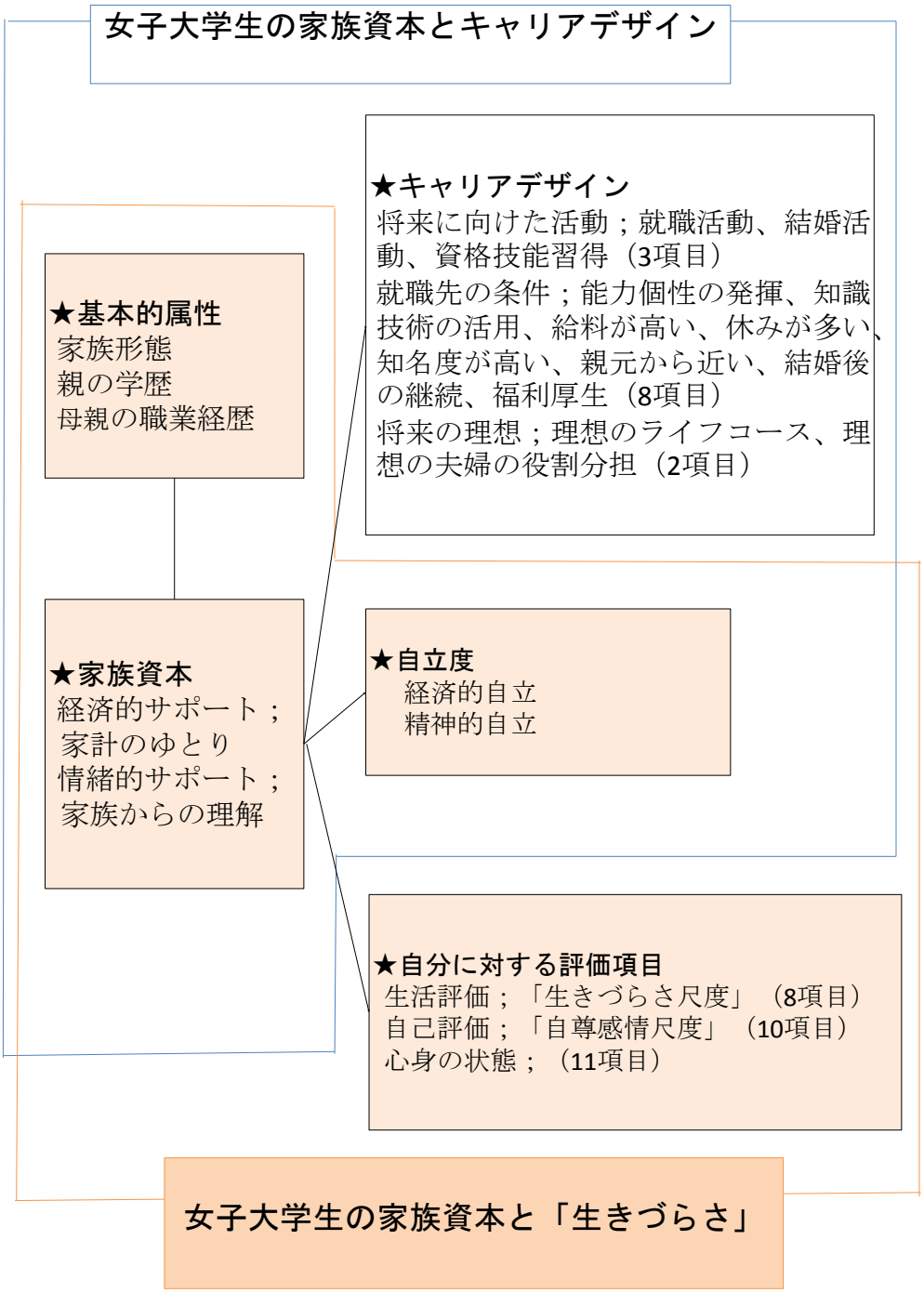
## 結論

1. 自立度との関連では、すべての評価項目で「精神的自立」との間に相関がみられた。また「自尊感情」についてのみ「経済的自立」と相関がみられた。
2. 家族資源との関連では、「自尊感情」以外の評価項目について、家族からの「経済的サポート」「情緒的サポート」との間に相関がみられた。
→これらのことから、当該個人が置かれている生活状況に関わる評価（「生きづらさ」「意欲の衰退」「不安定な精神状態」）には、家族資源の有無が関わっている。
しかし自己評価としての「自尊感情」には、家族資源の有無より、むしろ個人の自立意識に関わっているものと考察される。
3. 家族資本タイプ別の各評価項目の得点をみると、家族資本が充足しているほど、「生きづらさ」や心身の不調が軽減される可能性が示唆された。
4. 家族からの経済的サポートよりも、情緒的なサポートのほうがより「生きづらさ」の高低に寄与していることがうかがえた。

# 女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

〇山下美紀1・大石美佳2・正保正恵3・竹田美知4
（1 ノートルダム清心女子大学・2 鎌倉女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 枠組み



# 女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

〇山下美紀1・大石美佳2・正保正恵3・竹田美知4
（1 ノートルダム清心女子大学・2 鎌倉女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 目的と方法

**本報告の目 的**

女子大学生が自分自身の生活状況や心身の状態をどのように評価しているのかを明らかにし、家族資本4タイプとの関連を検討する。

◆調査概要

「女子大学生の家族資本とキャリアデザイン」を参照

◆調査内容

- 基本的属性（3項目）; 家族形態、親の学歴、母親の職業経歴
- 家族資本（2項目）
  - ・経済的サポート; 家計のゆとり
  - ・情緒的サポート; 家族からの理解
- 自立度（2項目）; 経済的自立、精神的自立
- 自分に対する評価項目
  - ・生活評価;「生きづらさ」に関する項目（山下2011：8項目、4件法）
  - ・自己評価; 自尊感情尺度（Rosenberg1965：10項目、5件法）
  - ・心身の状態;自分のからだや心の状態（11項目、4件法）

## 家族資本タイプの結果

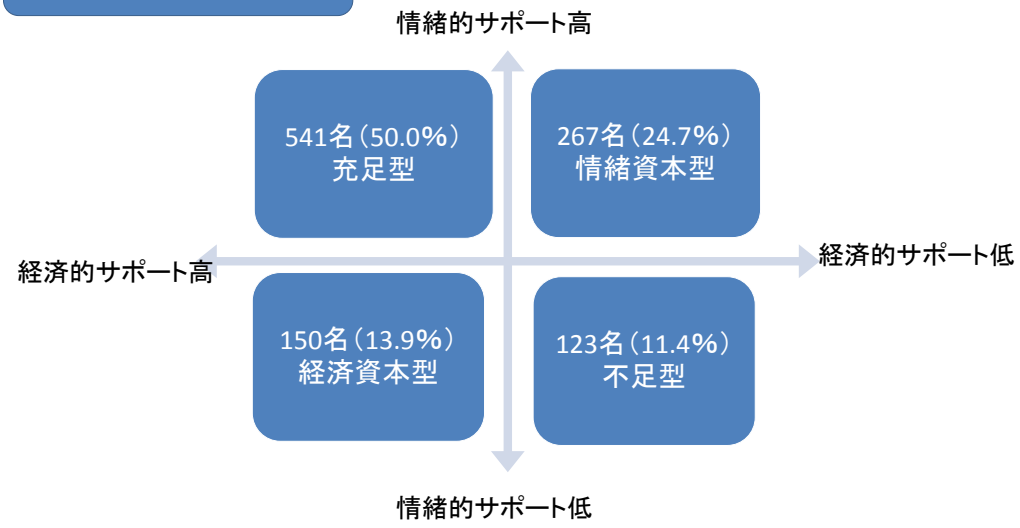



Figure1 家族資本タイプ

★ 経済的サポートは「家計にゆとりがあるかどうか」、情緒的サポートは「家族は気持ちをわかってくれるかどうか」の2項目を採用し、各高低群の組み合わせにより4つのタイプが析出された。

★ Figure1に示すように、経済的サポート・情緒的サポートが共に高い《充足型》が50%ともっとも多く、ついで《情緒資本型》、《経済資本型》、《不足型》と続く。

# 女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

○山下美紀1・大石美佳2・正保正恵3・竹田美知4
（1 ノートルダム清心女子大学・2 鎌倉女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結果1

### Table1 「生きづらさ尺度」平均点および因子分析結果

| 「生きづらさ」に関する項目 | 平均点（SD） |
|---|---|
| いろんなプレッシャーに押しつぶされるような気持ちになる | 2.31（0.93） |
| 「生きているのはつらい」とか「消えてしまいたい」と思うことがある | 1.99（0.90） |
| 将来にまったく希望が持てない | 1.98（0.89） |
| どこにも自分の居場所がないような気がする | 1.92（0.82） |
| いまの生活はつらいことのほうが多い | 1.90（0.79） |
| これ以上、何をがんばればいいのだと、思うことがある | 1.87（0.86） |
| ありのままの自分を、誰も認めてくれない | 1.71（0.71） |
| 自分なんか、この世に生まれてこなければよかったと思う | 1.62（0.75） |
| 信頼性係数=0.908　M=15.31, SD=5.20 | |

### Table2 心身の状態に関する因子分析結果（主因子法 バリマックス回転）

| 心身の状態に関する項目 | 第1因子 | 第2因子 |
|---|---|---|
| 憂鬱だと感じたこと | 0.698 | 0.329 |
| 何をするのも面倒と感じたこと | 0.638 | 0.219 |
| ふだんは何でもないことが煩わしいと感じたこと | 0.621 | 0.291 |
| 物事に集中できなかったこと | 0.572 | 0.196 |
| 家族や友人から励ましてもらっても気分が晴れないこと | 0.547 | 0.405 |
| 悲しいと感じたこと | 0.423 | 0.557 |
| 何か恐ろしい気がしたこと | 0.334 | 0.524 |
| ふだんより口数が少なくなったこと | 0.313 | 0.515 |
| なかなか眠れなかったこと | 0.093 | 0.446 |
| ひとりぼっちで寂しいと感じたこと | 0.296 | 0.445 |
| 食欲が落ちたこと | 0.122 | 0.317 |
| 寄与率 | 21.88 | 16.29 |
| 累積寄与率 | 21.88 | 38.16 |
| 信頼性係数 | 0.807 | 0.706 |
| 因子解釈 | 意欲の衰退 | 不安定な精神状態 |

★ 女子大学生の「生きづらさ」をみてみると、「プレッシャーに押しつぶされるような気持ち」がもっとも高い。
★ 「生きづらさ」については1因子構造が確認され、加算尺度として使用。
★ 心身の状態については、解釈可能な2因子が抽出され、それぞれ「意欲の衰退」「不安定な精神状態」と命名した。

# 女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

〇山下美紀1・大石美佳2・正保正恵3・竹田美知4
（1 ノートルダム清心女子大学・2 鎌倉女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結果2

自尊感情尺度（Rosenberg1965）

| 自尊感情 |
|---|
| 少なくとも人並みには、価値のある人間である |
| いろいろな良い素質を持っている |
| 敗北者だと思うことがある（反転項目） |
| 物事を人並みにはうまくやれる |
| 自分には自慢できるところがあまりない（反転項目） |
| 自分に対して肯定的である |
| だいたいにおいて、自分に満足している |
| もっと自分自身を尊敬できるようになりたい（反転項目） |
| 自分はまったくだめな人間だと思うことがある（反転項目） |
| 何かにつけて自分は役に立たない人間だと思う（反転項目） |

＜結果＞
加算尺度として使用
m＝30.48 sd＝4.53 range＝10-50

自立度

| 自立に関する項目 | |
|---|---|
| いまの自分は経済的に自立している | → 経済的自立 |
| いまの自分は精神的に自立している | → 精神的自立 |

# 女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

〇山下美紀1・大石美佳2・正保正恵3・竹田美知4
（1 ノートルダム清心女子大学・2 鎌倉女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結果3

Table3 各評価項目と自立度との相関

| | | 自立度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 経済的自立 | | 精神的自立 | |
| 評価項目 | 生きづらさ | -0.051 | | -0.271 | ** |
| | 自尊感情 | -0.111 | ** | -0.174 | ** |
| | 意欲の衰退 | -0.030 | | -0.235 | ** |
| | 不安定な精神状態 | -0.003 | | -0.187 | ** |

**$p < 0.01$

Table4 各評価項目と家族資源との相関

| | | 家族資源 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 経済的サポート | | 情緒的サポート | |
| 評価項目 | 生きづらさ | -0.148 | ** | -0.305 | ** |
| | 自尊感情 | -0.054 | | -0.053 | |
| | 意欲の衰退 | -0.100 | ** | -0.251 | ** |
| | 不安定な精神状態 | -0.080 | ** | -0.172 | ** |

**$p < 0.01$

# 女子大学生の家族資本と「生きづらさ」

〇山下美紀1・大石美佳2・正保正恵3・竹田美知4
（1 ノートルダム清心女子大学・2 鎌倉女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結論

1．自立度との関連では、すべての評価項目で「精神的自立」との間に相関がみられた。また「自尊感情」についてのみ「経済的自立」と相関がみられた。

2．家族資源との関連では、「自尊感情」以外の評価項目について、家族からの「経済的サポート」「情緒的サポート」との間に相関がみられた。

→これらのことから、当該個人が置かれている生活状況に関わる評価（「生きづらさ」「意欲の衰退」「不安定な精神状態」）には、家族資源の有無が関わっている。

しかし自己評価としての「自尊感情」には、家族資源の有無より、むしろ個人の自立意識に関わっているものと考察される。

3．家族資本タイプ別の各評価項目の得点をみると、家族資本が充足しているほど、「生きづらさ」や心身の不調が軽減される可能性が示唆された。

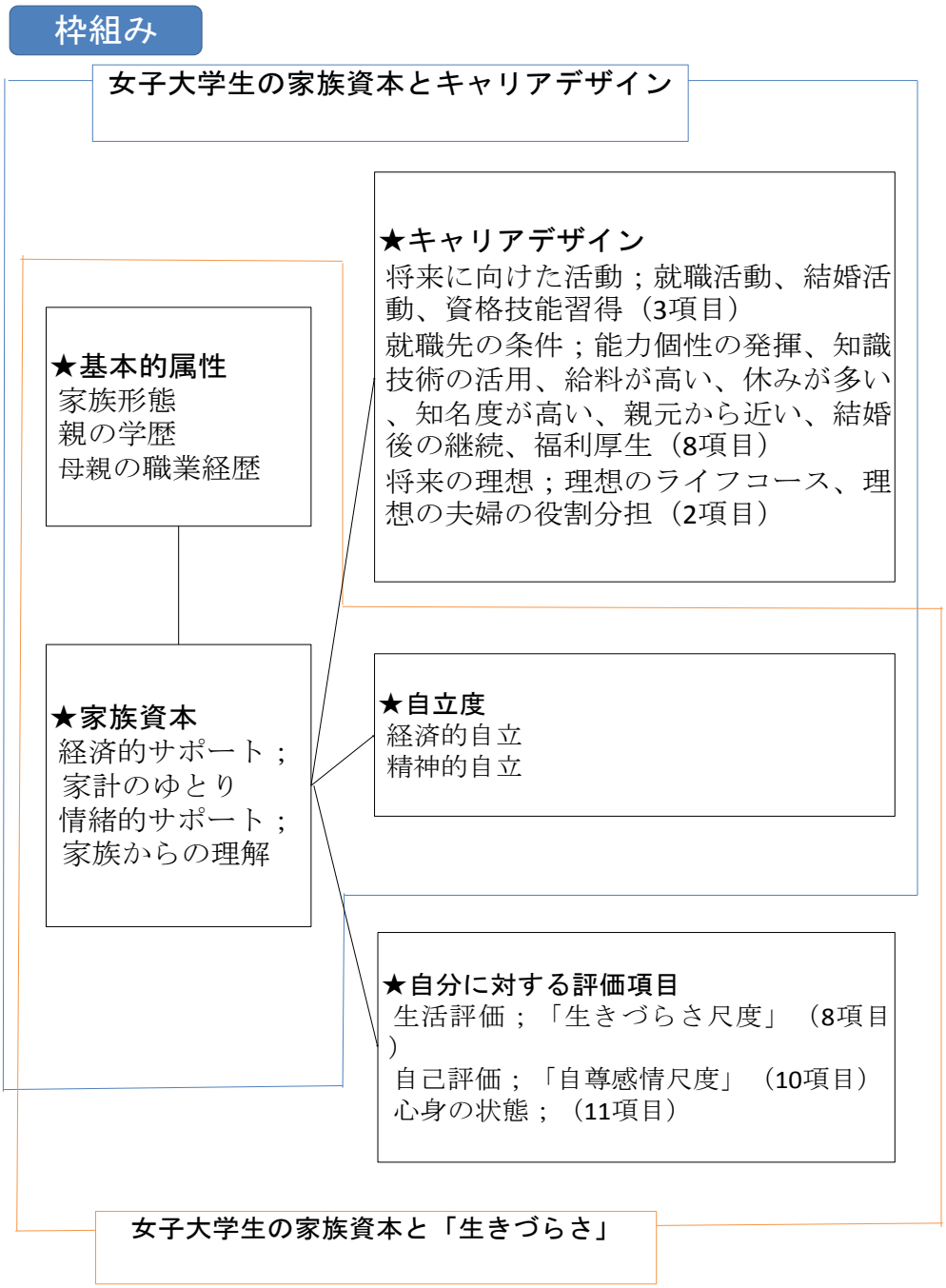
4．家族からの経済的サポートよりも、情緒的なサポートのほうがより「生きづらさ」の高低に寄与していることがうかがえた。

～ご清聴ありがとうございました

（２）女子大学生の家族資本とキャリアデザイン

# 女子大学生の家族資本とキャリアデザイン

〇大石美佳1･山下美紀2 ･正保正恵3･竹田美知4
（1 鎌倉女子大学･2 ノートルダム清心女子大学･3 福山市立大学･4 神戸松蔭女子学院大学）



# 女子大学生の家族資本とキャリアデザイン

〇大石美佳1・山下美紀2・正保正恵3・竹田美知4
（1 鎌倉女子大学・2 ノートルダム清心女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 目的と方法

◆教育期から労働期への移行段階における若年女性の自立と家族資本との関連を明らかにすることを目的として、女子大学生を対象に質問紙調査を実施した。

◆調査概要
調査協力者：女子大学生1097名
調査時期：2012年11月～12月
調査方法：無記名による自記式質問紙調査

**本報告の目的**
1.女子大学生の家族資本のタイプを析出する。
2.女子大学生のキャリアデザインを把握する。
3.女子大学生のキャリアデザインと家族資本4タイプとの関連を検討する。

◆調査内容

- 基本的属性（3項目）; 家族形態、親の学歴、母親の職業経歴
- 家族資本（2項目）
  ・経済的サポート; 家計のゆとり
  ・情緒的サポート; 家族からの理解
- 自立度（2項目）; 経済的自立、精神的自立
- キャリアデザイン
  ・将来に向けた活動（3項目）; 就職活動、結婚活動、資格技能習得
  ・就職先の条件（8項目）; 能力個性の発揮、知識技術の活用、
  給料が高い、休みが多い、知名度が高い、
  親元から近い、結婚後の継続、福利厚生
  ・将来の理想（2項目）; 理想のライフコース、理想の夫婦の役割分担

# 女子大学生の家族資本とキャリアデザイン

〇大石美佳1・山下美紀2・正保正恵3・竹田美知4
（1 鎌倉女子大学・2 ノートルダム清心女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結果と考察

### Table1 家族資本タイプ別、理想のライフコース

人数（%）

| | 結婚し、子どもをもち、退職し、仕事はもたない | 結婚し、子どもをもち、いったん退職、再び仕事をもつ | 結婚し、子どもをもち、仕事を続ける | 結婚し、子どもはもたず、仕事を続ける | 結婚せず、仕事を続ける | $\chi^2$値 df=12 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 132 | 515 | 352 | 30 | 40 | |
| | (12.3) | (48.2) | (32.9) | (2.8) | (3.7) | |
| 1. 充足型 | 83 | 271 | 160 | 12 | 11 | 37.082*** |
| | (15.5) | (50.5) | (29.8) | (2.2) | (2.0) | |
| 2. 経済資本型 | 17 | 67 | 47 | 7 | 9 | |
| | (11.6) | (45.6) | (32.0) | (4.8) | (6.1) | |
| 3. 情緒資本型 | 18 | 127 | 106 | 5 | 10 | |
| | (6.8) | (47.7) | (39.8) | (1.9) | (8.4) | |
| 4. 不足型 | 14 | 50 | 39 | 6 | 10 | |
| | (11.8) | (42.0) | (32.8) | (5.0) | (3.7) | |

***$p<0.01$

### Table2 家族資本タイプ別、理想の夫婦の役割分担

人数（%）

| | 性別役割分業型「夫は仕事、妻は家庭」 | 新性別役割分業型「夫は仕事、妻は仕事と家庭」 | 男女共同参画型「夫婦で仕事も家庭も」 | $\chi^2$値 df=6 |
|---|---|---|---|---|
| 全体 | 249 | 113 | 691 | |
| | (23.6) | (10.7) | (65.6) | |
| 1. 充足型 | 151 | 58 | 318 | 21.362** |
| | (28.7) | (11.0) | (60.3) | |
| 2. 経済資本型 | 58 | 15 | 93 | |
| | (24.5) | (10.5) | (65.0) | |
| 3. 情緒資本型 | 39 | 30 | 195 | |
| | (14.8) | (11.4) | (73.9) | |
| 4. 不足型 | 24 | 10 | 85 | |
| | (20.2) | (8.4) | (71.4) | |

**$p<0.05$

# 女子大学生の家族資本とキャリアデザイン

〇大石美佳1・山下美紀2・正保正恵3・竹田美知4
（1 鎌倉女子大学・2 ノートルダム清心女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結果と考察

### Table3 家族資本タイプ別、自立度・将来に向けた活動・就職先の条件の平均値

| | 1. 充足型 | 2. 経済資本型 | 3. 情緒資本型 | 4. 不足型 | 全体 | *F*値 | 多重比較の結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自立度 | | | | | | | |
| 経済的自立 | 1.84 | 1.81 | 1.85 | 1.80 | 1.83 | 0.14 | |
| | (0.80) | (0.71) | (0.81) | (0.78) | (0.79) | | |
| 精神的自立 | 2.38 | 2.27 | 2.30 | 2.22 | 2.32 | 2.15 | |
| | (0.74) | (0.77) | (0.71) | (0.76) | (0.74) | | |
| 将来に向けた活動 | | | | | | | |
| 就職活動 | 2.12 | 1.93 | 2.20 | 1.00 | 2.08 | 6.262*** | 1 > 4、3 > 2,4 |
| | (0.81) | (0.83) | (0.90) | (0.82) | (0.84) | | |
| 結婚活動（婚活） | 1.64 | 1.49 | 1.48 | 1.38 | 1.55 | 6.54*** | 1 > 3, 4 |
| | (0.77) | (0.70) | (0.68) | (0.60) | (0.72) | | |
| 資格技能取得 | 2.64 | 1.37 | 2.50 | 2.28 | 2.53 | 6.922*** | 1 > 2, 4 |
| | (0.96) | (0.87) | (0.91) | (0.94) | (0.94) | | |
| 就職先の条件 | | | | | | | |
| 能力個性の発揮 | 3.32 | 3.25 | 3.38 | 3.21 | 3.31 | 2.928* | 3 > 4 |
| | (0.61) | (0.61) | (0.59) | (0.66) | (0.61) | | |
| 知識技術の活用 | 2.88 | 2.72 | 2.97 | 2.81 | 2.87 | 3.045* | 3 > 2 |
| | (0.85) | (0.81) | (0.82) | (0.86) | (0.84) | | |
| 給料が高い | 3.01 | 3.05 | 3.06 | 3.06 | 3.03 | 0.63 | |
| | (0.57) | (0.65) | (0.54) | (0.60) | (0.58) | | |
| 休みが多い | 2.99 | 3.05 | 2.92 | 2.92 | 2.97 | 1.79 | |
| | (0.62) | (0.65) | (0.62) | (0.63) | (0.63) | | |
| 知名度が高い | 2.32 | 2.25 | 2.26 | 2.18 | 2.28 | 1.36 | |
| | (0.76) | (0.79) | (0.75) | (0.76) | (0.76) | | |
| 親元から近い | 2.70 | 2.29 | 2.61 | 2.18 | 2.56 | 19.283*** | 1, 3 > 2, 4 |
| | (0.83) | (0.91) | (0.82) | (0.60) | (0.86) | | |
| 結婚後の継続 | 2.86 | 2.93 | 3.09 | 2.92 | 2.93 | 4.716* | 3 > 1 |
| | (0.84) | (0.80) | (0.77) | (0.83) | (0.82) | | |
| 福利厚生 | 3.33 | 3.35 | 3.42 | 3.35 | 3.36 | 1.39 | |
| | (0.62) | (0.68) | (0.58) | (0.60) | (0.61) | | |

上段は平均値, 下段は標準偏差、*$p < 0.05$ , **$p < 0.01$, ***$p < 0.001$

# 女子大学生の家族資本とキャリアデザイン

〇大石美佳1・山下美紀2・正保正恵3・竹田美知4
（1 鎌倉女子大学・2 ノートルダム清心女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結果と考察

1.家族からの経済的サポートと情緒的サポートの高低の組み合わせから、≪充足型≫≪経済資本型≫≪情緒資本型≫≪不足型≫4つの家族資本タイプが析出された。女子大学生の家族資本タイプは経済・情緒ともに高群である≪充足型≫が50.0%と半数を占め、もっとも多かった（3P-5,Figure1 参照）。

2. 女子大学生の理想のライフコースは「結婚出産で中断、再就職」が48.2%ともっとも多く、 理想の夫婦の役割分担は「夫婦で仕事も家庭も」という男女共同参画型が65.6%ともっとも多かった。

家族資本タイプ別にみると、≪充足型≫に「結婚出産で退職」「結婚出産で中断、再就職」が多く、家庭志向であるのに対し、≪情緒資本型≫では「結婚出産し、仕事も継続」が多く、両立志向がみられた。

このような傾向は理想の夫婦の役割分担にも表れており、≪充足型≫は「夫は仕事、妻は家庭」の性別役割分業型を志向する傾向が、《情緒資本型》は「夫婦で仕事も家庭も」という男女共同参画型を志向する傾向がみられた。

≪充足型≫と≪情緒資本型≫はいずれも家族からの情緒的サポートが高い点で共通しているが、経済的サポートの高低に違いがみられるタイプである。

女子大学生にとって家族からの経済的サポートの高低が家庭志向か両立志向（経済的自立志向）というキャリアデザインに結びつくことが示唆された。

# 女子大学生の家族資本とキャリアデザイン

〇大石美佳1・山下美紀2・正保正恵3・竹田美知4
（1 鎌倉女子大学・2 ノートルダム清心女子大学・3 福山市立大学・4 神戸松蔭女子学院大学）

## 結果と考察

3. 女子大学生の自立度は低く、約8割が経済的に自立していない、約6割が精神的に自立していないと自己評価しており、家族資本タイプと自立度のあいだには、相関はみられなかった。

将来に向けた活動では、≪充足型≫は「結婚活動（婚活）」「資格技能の取得」、≪情緒資本型≫は「就職活動」に他のタイプよりも力をいれている一方で、≪不足型≫≪経済資本型≫はすべての活動において得点が低い傾向がみられた。

これらの結果から、将来に向けた活動への意欲には、家族からの情緒的サポートが関連していることが推察された。

就職先の条件では、≪情緒資本型≫は他のタイプよりも「能力個性の発揮」「知識技能の活用」「結婚後の継続」を重視しており、ここでもキャリア志向・両立志向がみられた。

また≪充足型≫≪情緒資本型≫は他の2タイプよりも「親元から近い」ことを重視する傾向がみられた。

≪充足型≫≪情緒資本型≫は親からの情緒的サポートが高いタイプであることから、親子関係の良好さによるものと考察され、就職後も良好な親子関係のもと、家族からの情緒的サポートを期待していることがうかがえた。

（３）大学生の奨学金返済不安の要因分析

# 大学生の奨学金返済不安にかかわる要因分析
## ―家族関係資源を補完する大学の役割―

正保正惠　福山市立大学
竹田美知　神戸松蔭女子学院大学
山下美紀　ノートルダム清心女子大学
大石美佳　鎌倉女子大学）

## 1．研究目的

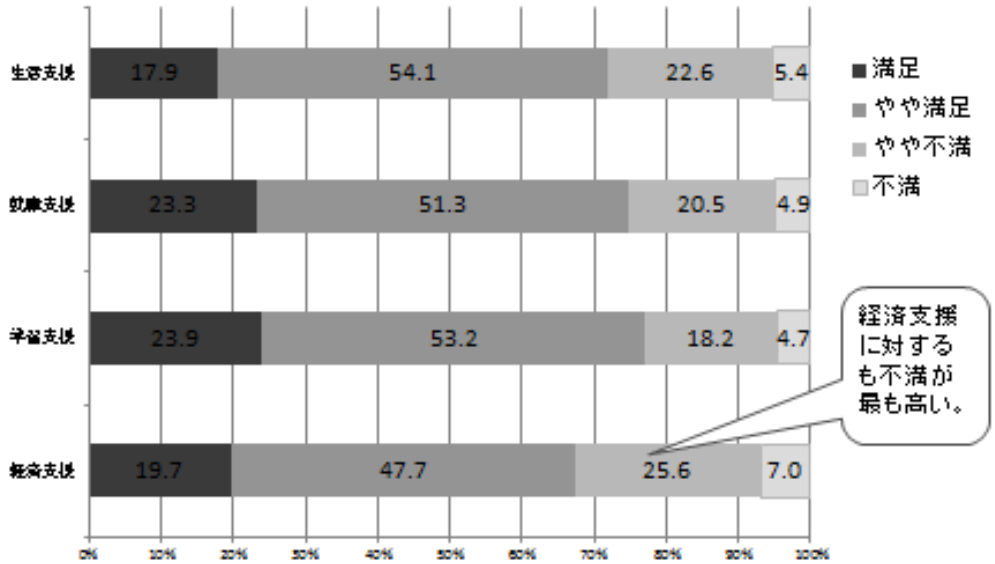
● 目的　大学生を取り巻く経済状況と将来設計については、これまで焦点が当てられていなかった。昨今の経済状況の悪化を反映して奨学金受給者が増加しているが、奨学金返済について不安を持っている学生も増えている。奨学金返済に関する学生の不安を取り上げその要因を分析し、大学での新たな支援の必要性について提案する。

# 学費の壁、海外でも

（朝日新聞2014.11.25.）

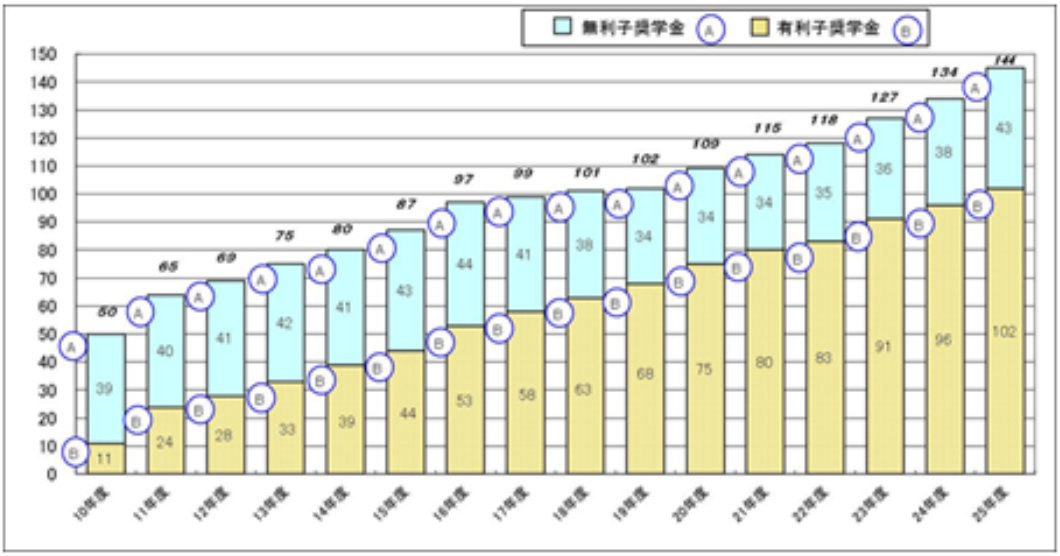
- 「格差是正の装置」とみられてきた教育が、財政状況の悪化を背景に学費の高騰によって脅かされつつある。
- OECDによると、「教育は福祉」という理念があるフランスやオランダでも学費が上がっている。
- 米国では、2013年の私立大学の平均で約31000ドル（約370万円）。公立、一般私立大の卒業生の約6割が借金を背負い、平均借入額は約27000ドル（約320万円）の達するという。

# 大学の学生支援体制への満足度




出典：日本学生支援機構による平成24年度学生生活調査結果概要より

日本学生支援機構による学生への奨学金貸与
（日本学生支援機構HPより）




# (2)報告者らによる先行調査

：大学学生支援担当者へのインタヴュー

- 2011年に4つの大学の学生支援担当にインタヴュー調査を実施。

問題点

①奨学金を貸与した場合、卒業後の返済が必要となるが、現状では在学中の返済教育が充分にはなされていない。

②本人に借金の自覚がない。

③就職率も低下し、正規雇用が減少する中、奨学金を返済できないケースが増えている。

## (3)大学教育学会における先行研究
## :学生支援の多様化

- 経済不況や学生の質の変容などの要因により、「学生支援にかかわる教職員に求められる能力」として、メンタルヘルス、キャリア支援、学習支援などが挙げられ、学生支援のニーズが多様化していることが報告されている（川島啓二「学生支援を担当する大学教職員のための研修の在り方ついて」『大学教育学会誌』第35巻第1号 2013 pp.90-91）。

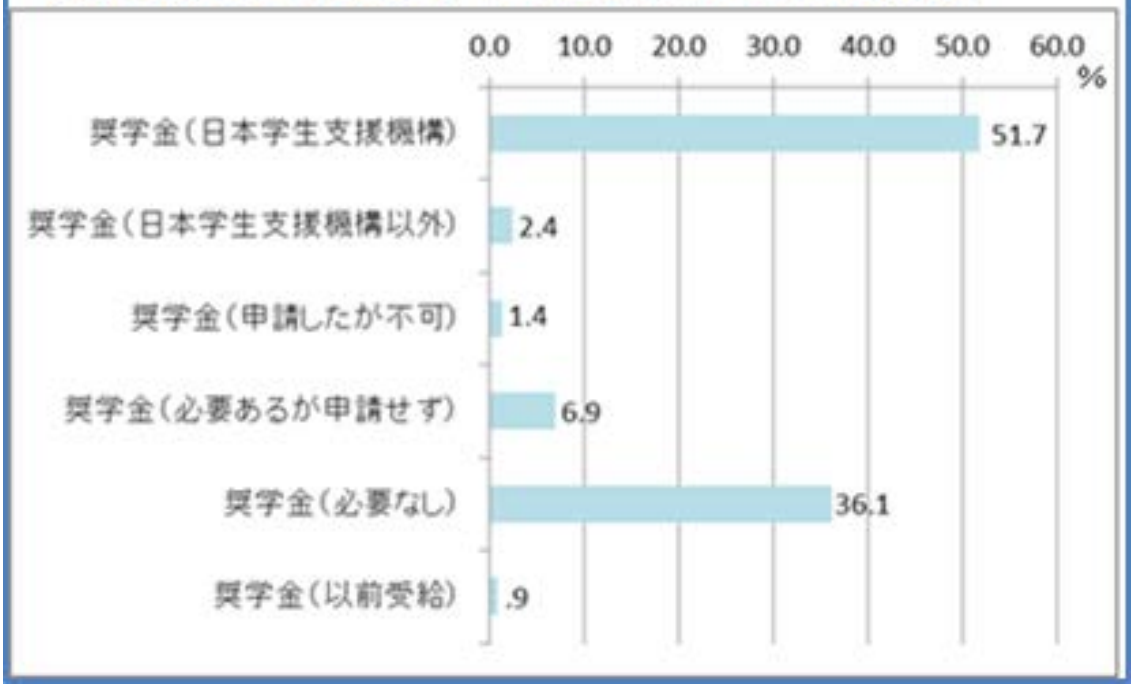
## 4. 調査方法

- 調査方法 2013年12月の講義中にA公立大学の学生（1～3年生）へのアンケート調査を行った。（集合調査法、配布数：631、回収数570、回収率90.3%）。
- 調査対象 調査対象のA大学は、地方都市の公立大学で、2014年に創設4年目を迎える。学部構成は、教育学部と都市経営学部の2学部である。学生数は4学年合わせて約1000人である。必修科目受講者全体（631）を母集団とした。

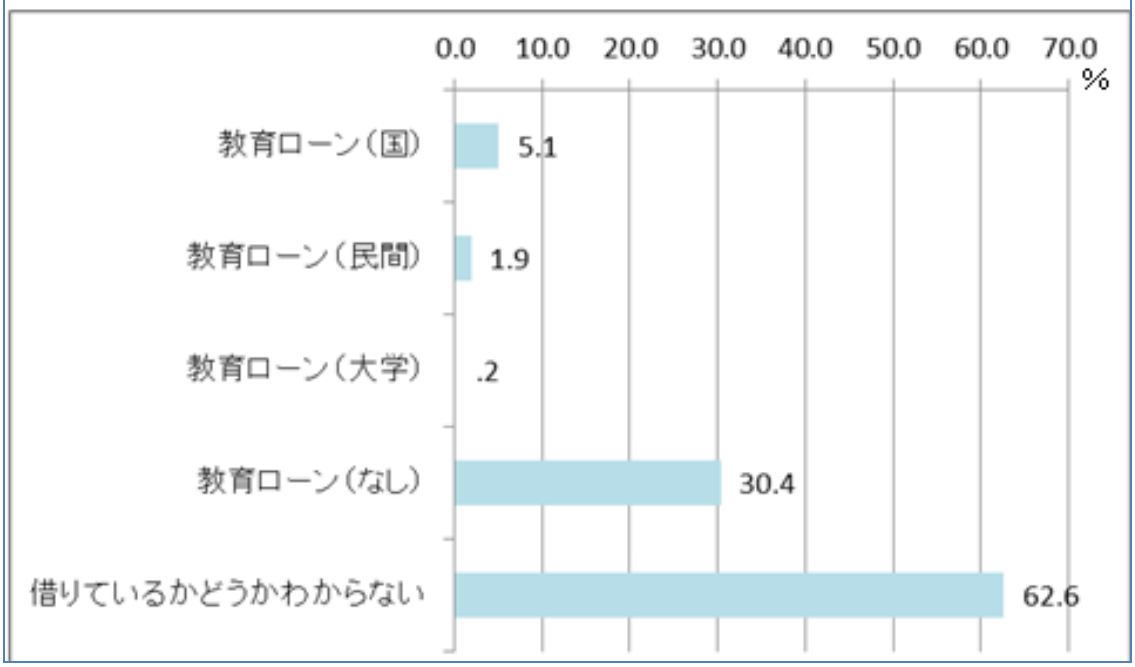
# 研究枠組み

# 5. 調査結果

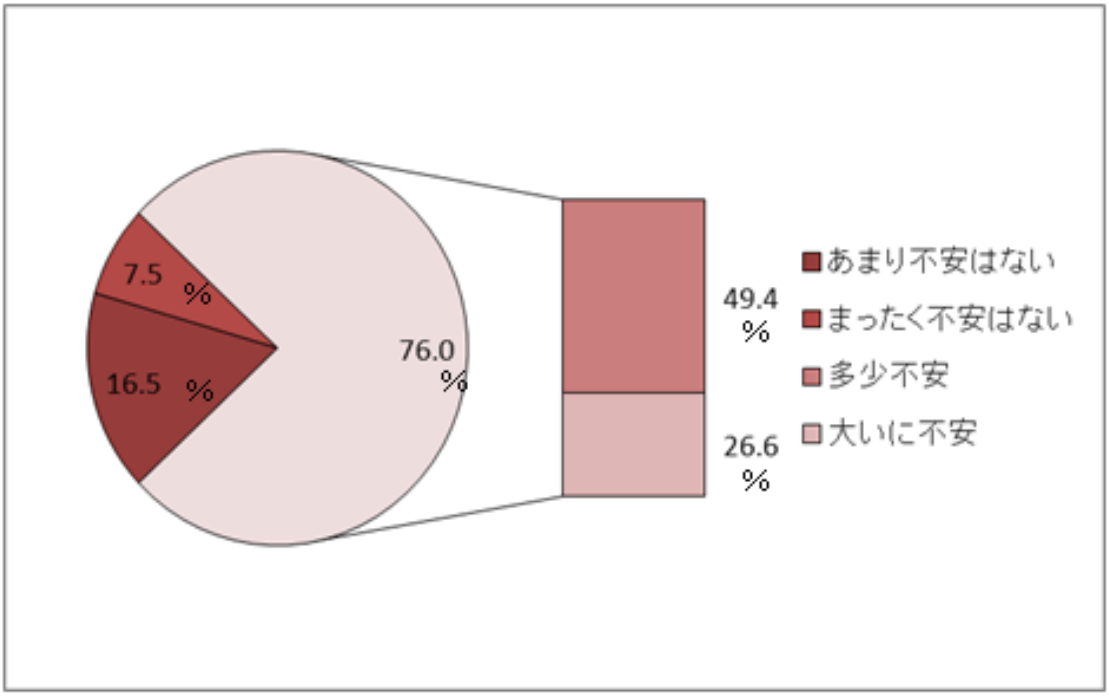
## (1)A大学の奨学金の貸与者の状況



## （2）A大学の学生ローンの状況




## （3）学生の将来の奨学金返済への不安



# (4)奨学金返済の不安とその原因

相関係数

| | 将来の暮らし向き | S7-1 生活費補充（奨学金） | S9-1 アルバイト目的（学費） | S9-1 アルバイト目的（住居費） | S9-1 アルバイト目的（住居費） | 家族関係（家族に話せないことが多い） | 家族関係（家族が気持ちをわかってくれる） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 奨学金返済への不安 | 0.286** | 0.391** | 0.146* | 0.183** | 0.249** | 0.165** | 0.168** |

＊＊　1%水準有意
＊　　5%水準有意

# (5)将来の不安の重回帰分析結果

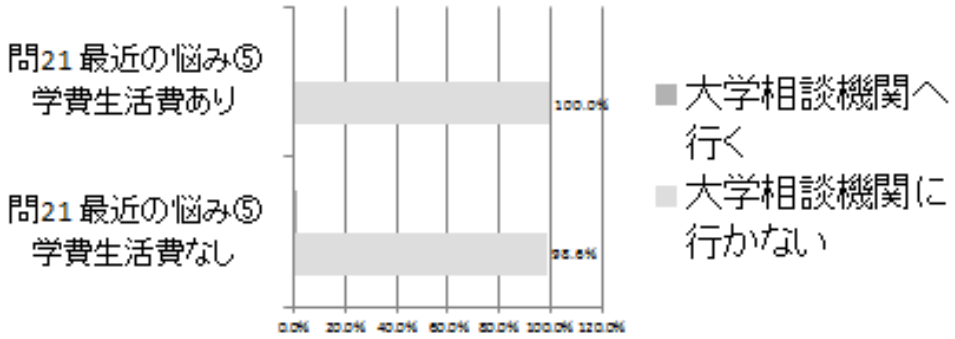
| | 標準化されていない係数 | | 標準化係数 | t値 | 有意確率 |
|---|---|---|---|---|---|
| | B | 標準誤差 | ベータ | | |
| 定数 | 1.172 | .27 | | 4.349 | ＊＊＊ |
| 生活費補充（奨学金） | .807 | .131 | .402 | 6.144 | ＊＊＊ |
| 将来の暮らし向き | .351 | .078 | .298 | 4.531 | ＊＊＊ |
| 家族関係（家族に話せないことが多い | .158 | .068 | .154 | 2.335 | ＊＊ |

調整済み$R^2$＝.253

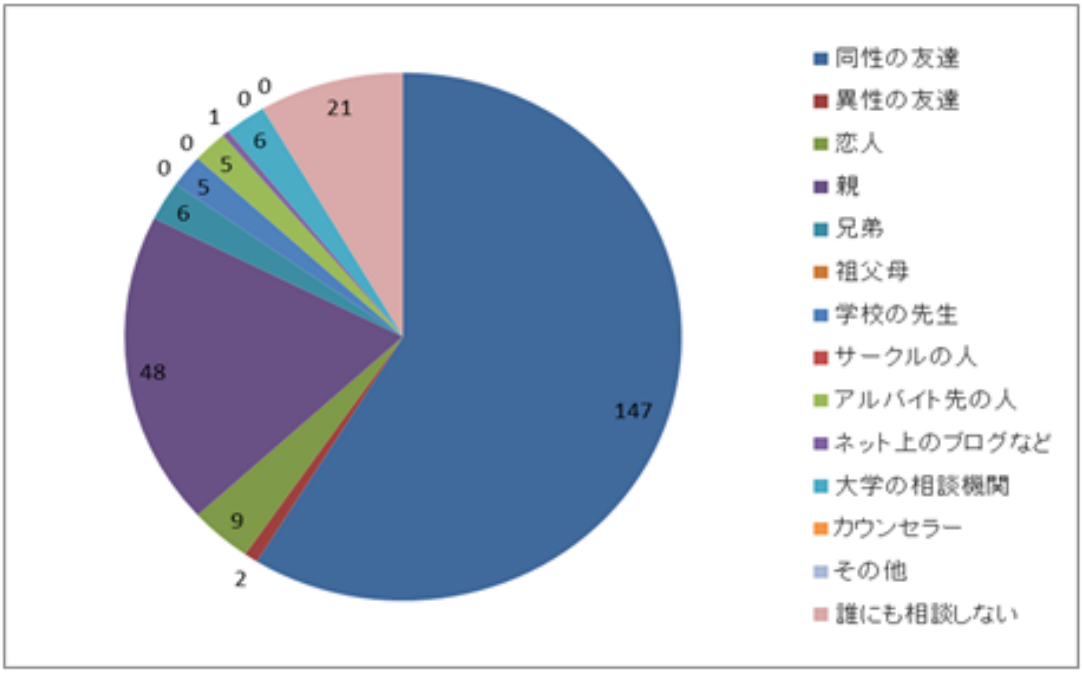
- 重回帰分析の結果、分散分析の結果モデルの適合度はよく、このモデルの調整済み$R^2$は**0.253**であった。
- 「家庭からの給付で生活費が足りないので奨学金で補っている」ということが最も返済不安を大きくしている。
- 「将来の暮らし向きの見通しが不安である」ことが、次に返済不安を大きくしている。
- 「困ったことがあっても家族に話せない」ように家族とのコミュニケーションが取れていないことが、返済不安を大きくしている。

# (6)大学サポートの不在

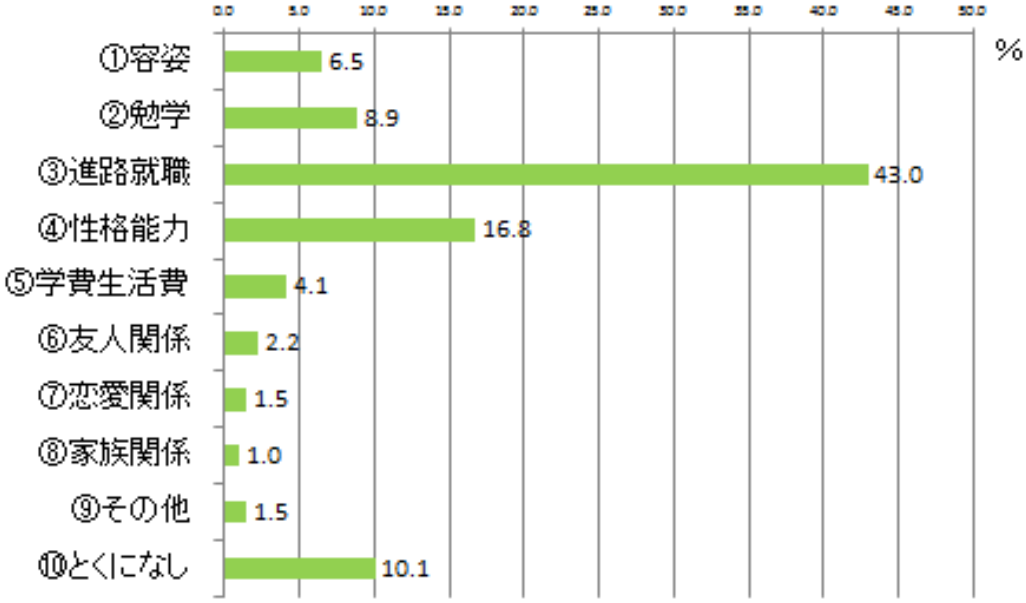
- 学生に対する家族資源においては、経済的資源がないこと、情緒的資源がないことが大きな不安要因になっていた。現在の返済の不安に対して、**大学側の学生支援などのサポートがまったく影響を及ぼしていない**ことも問題であると思われる。



# (7)学生の相談相手




# (8)学生の現在の悩み




**学生の悩みで一番多いのは、「進路・就職」であった。これは、卒業生がまだいない新設大学の特徴も加わっているかもしれない。**

# 6. 考察

- 現在の「学費・生活費」の不安を感じる人は少ないが、「将来の奨学金返済」の不安は大きい。
- 特に、現在の相談相手が「同性の友人」「家族」にとどまり、大学関係の公的相談機関を利用していない。
- 不安解消の資源を持たない学生に対して**「進路・就職」に対する不安と「奨学金返済」の不安はセット**になっており、深刻化すると取り返しがつかない事態にもなりかねない。資源のある学生にもより正しい対処には、公的なサポートが有効であろう。

- **A大学を含めて我が国の学生支援のあり方の変革を求める必要があると考えられる。**

# 7. 提言

## （1）アメリカにおける学生支援の事例

- 大学ではパーソナルファイナンスに関する授業を行っており、新入生向けの1単位のオンラインコース、対面式/オンライン式の両方で提供されている包括的な3単位のコースがある。→アイオワ州立大学
- 高校におけるパーソナルファイナンス教育が普及している。奨学金貸与がされる以前に将来設計、返済教育がされている。→エイムス市サイクロン高校

- 「ファイナンシャルクリニック」という機構があり、その職員の説明によれば、2名の専門家による1対1の対面式・電話によるカウンセリングを実施している。
- 学生は専門家に相談できることを好ましく思っており、授業でのワークショップ講義の後に1対1のカウンセリングにつながることもある。

## （2）我が国の大学に求められること
## ⇒ 経済支援の充実

- 高校までに奨学金貸与や返済計画を含めたファイナンシャル教育（将来に向けての金銭計画の教育）が必要。
- 大学では、共通科目におけるパーソナルファイナンス教育が必要。
- 学生への１対1のファイナンシャル・クリニックが必要。
- SD（スタッフ・ディベロップメント）としての職員へ専門教育に経済支援を含める必要がある。

# 参考文献


- 1) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）学生生活部学生支援推進課「平成24年度学生生活調査結果」の概要p.2
- 2)結果の一部を国際家政学会2012年メルボルン大会にて発表した。Michi Takeda, Masae Shouho, Miki Yamashita, Mika Oishi and Tahira Hira "IMPORTANCE OF ESTABLISHING CAREER AND FINANCIAL COUNSELLING CENTRES ON CAMPUSES OF WOMEN'S COLLEGES IN JAPAN"
- 3) 川島啓二「学生支援を担当する大学教職員のための研修の在り方ついて」『大学教育学会誌』第35巻第1号　2013　pp.90-91
- 4)竹田 美知,橋長 真紀子,タヒラヒラ「アイオワ州立大学におけるパーソナルファイナンス・カウンセリング」神戸松蔭女子学院大学研究紀要. 人間科学部篇 2, 2013 , pp.37-56



- 本研究は、科学研究費助成事業（基盤研究C）

課題番号　23500898

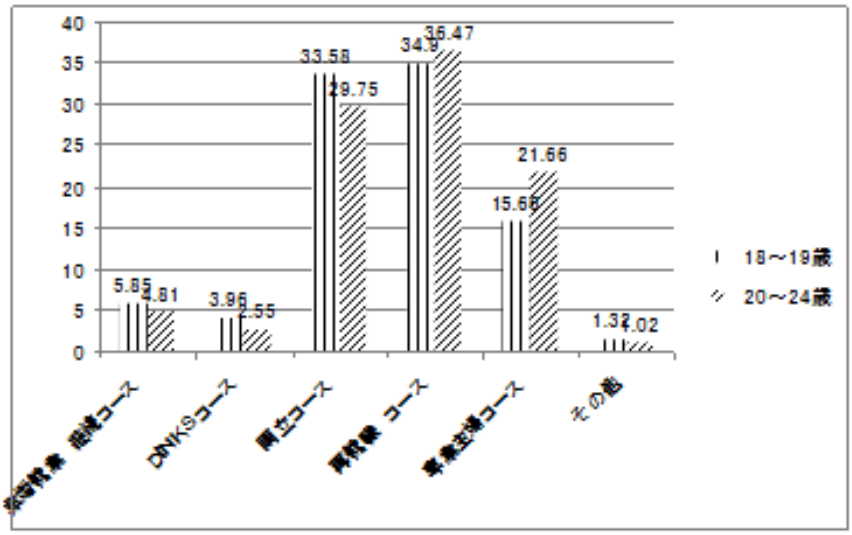
研究課題名「教育期から労働期への移行段階における若年女性の自立と家族資本ー日米比較調査ー」（平成23年～26年）（代表者：竹田美知　神戸松蔭女子学院大学教授）の助成を受け、行われた。

（５）女子大学生と将来設計

# 女子大学生と将来設計

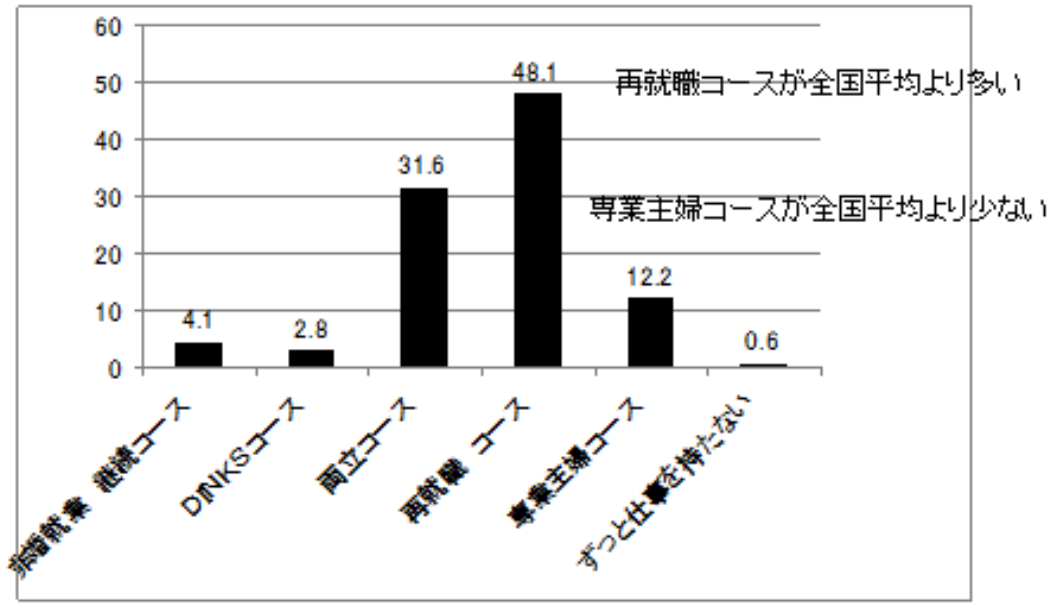
竹田　美知

## 「第14回出生動向調査・独身者調査」における女性のライフコース




調査対象：18歳以上24歳未満の未婚女性のみ集計

# 女子大学生（4女子大）のライフコース




# 女子大生のライフコースに影響を与える要因は？

山田（2013）「女性労働の家族依存モデルの限界」によると

1 女性の意識

- 若い女性は願望として従来のモデル専業主婦コースや再就職コース（性別役割分業家族）

2 経済的問題

- 共働きをしなければ生活できない、
- 養ってくれる結婚相手が見つからない
- 親にパラサイトも出来ずに貧困化している若い女性が出現している

# ほんとうにそうなの？

- ほんとうに専業主婦コースや再就職コースを希望する人は性別役割分業を肯定しているの？

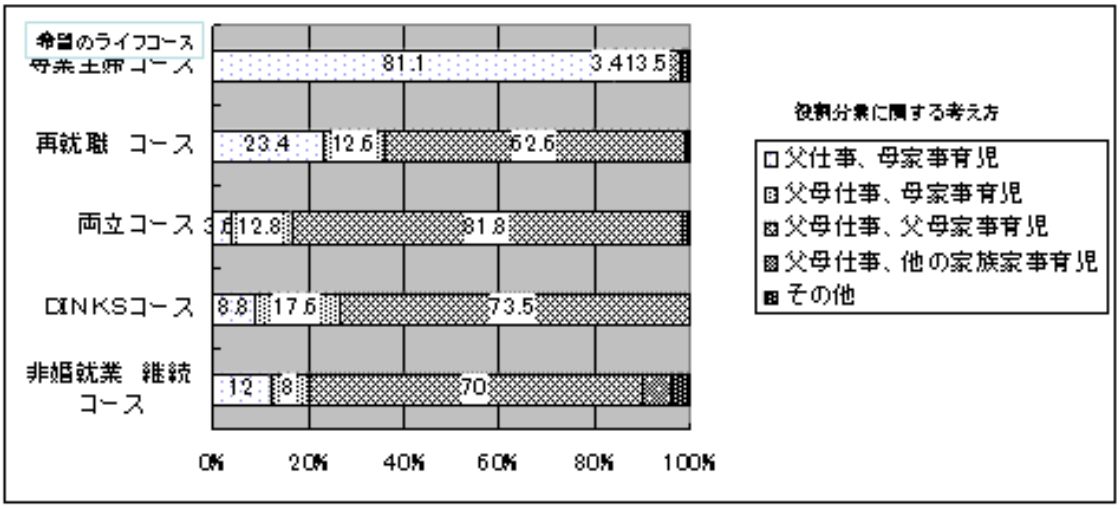
↓

今回の女子大学生の調査ではそんな事実があるの？

↓

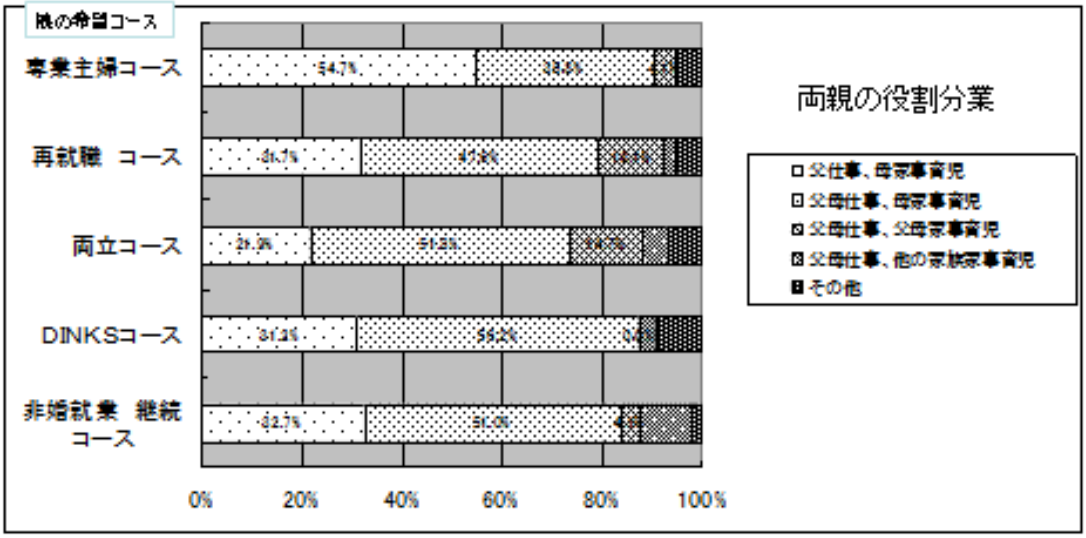
調べてみました

# ライフコースと理想の役割分業の関係




確かに専業主婦コースや再就職コースを希望する人は性別役割分業を肯定している人が多い

# それってもしかしたら今の両親の役割分業が影響しているじゃない？




確かに、現在の両親が性別役割分業していると専業主婦や再就職を希望している

# 婚活ブーム　1期

- 婚活1期　2008年3月～10月　開内　文乃

適齢期の子どもを持つ親のあせりから始まった婚活は、結婚を就職活動になぞらえる。

もはや自然な出会いを待っていられない。

積極的に婚活を始めると

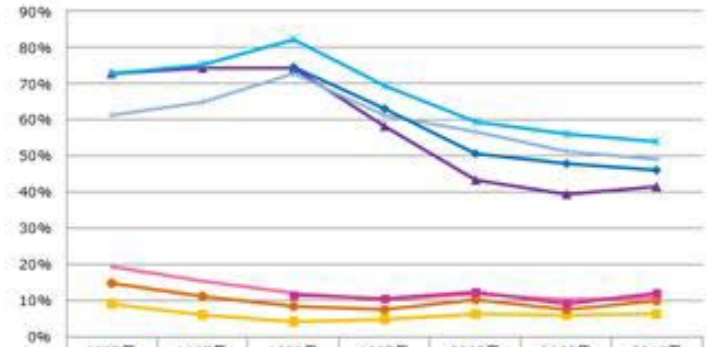
自分の理想の結婚相手を追い求める

⇔

自分の現実に見合った相手を探し出す

図表2 未婚20代の就労状況 → 若年女性(男性も)、正社員率が低く、失業率も高い

未婚者の正社員率・無職率（女性）




| | 1982年 | 1987年 | 1992年 | 1997年 | 2002年 | 2005年 | 2010年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正社員（20～24歳） | 72.8 | 74.3 | 74.3 | 58.3 | 43.5 | 39.5 | 41.5 |
| 正社員（25～29歳） | 72.7 | 75.3 | 82.3 | 69.4 | 59.5 | 56.0 | 54.1 |
| 正社員（30～34歳） | 61.2 | 65.0 | 72.9 | 61.3 | 56.7 | 51.4 | 49.3 |
| 正社員（35～39歳） | | | 74.6 | 63.1 | 50.7 | 47.8 | 46.1 |
| 無職・家事（20～24歳） | 9.0 | 6.2 | 4.3 | 5.0 | 6.5 | 6.1 | 6.5 |
| 無職・家事（25～29歳） | 15.0 | 11.2 | 8.4 | 7.5 | 10.4 | 7.7 | 10.1 |
| 無職・家事（30～34歳） | 19.4 | 15.6 | 12.1 | 10.2 | 11.7 | 10.4 | 11.0 |
| 無職・家事（35～39歳） | | | 11.6 | 10.7 | 12.3 | 9.0 | 12.2 |

# 婚活ブーム2期

- リーマン・ショック後の社会不安　2009年以後
- 若者の雇用の悪化とともに「結婚はしたい」が「結婚は経済的に不安でできない」状態

↓

婚活の変化

「自分のライフスタイルにあった自分なりの相手を探す活動」から「より社会的・経済的に成功している人と結婚するための活動」へ変化

→ロマンティック・ラブは終焉したか？

## グループ討論をしてみようA

- 専業主婦ってあこがれ？
- 女子大学生に再就職コースが多いのはなぜ？
- 将来、経済的に不安だから両働き？
- 親と一緒にいたいけど、いつまでも頼っていられないので、結婚する？
- 就活が不調だから婚活に切り替える？
- やっぱりお母さんは理想のライフコース？

**（６）リアクションペーパー**

**１）グループ討論**

「女子大生に再就職コースが多いのはなぜ？」という質問に焦点をあててグループ討論をした結果をリアクションペーパーに記入した。下記はリアクションペーパー記入された内容である。

Ａ→子育てのために一度仕事をやめても、経済的不安から再就職を希望する
・最初の仕事はお金をためるための仕事であり、産休や育休などをとらせてもらえる仕事に就くため再就職は子育てしやすい環境の仕事に就く。

Ｂ→女子大学生に再就職コースが多いのはなぜか？という討論をしました。討論というよりも順に発表したので発表会形式となってしまいましたが３パターンの理由が挙がりました。１つ目は、育児が終わり、時間的余裕ができたことによって再就職する場合。
２つ目は、結婚、妊娠、出産を経てサイド経済的事由のために働かざるを得ない場合。
３つ目が、環境が整っていないために、仕事を続けていたくても一度やめなければ出産・育児ができない場合です。いずれの場合にも出産と育児が深く関わっており、女性の望んでの再就職（一度退職をする必要がある）は、あまりないのではないかと思います。

Ｃ→経済的に共働きしないと子どもを育てる費用が稼げないという人が多い。私は男性は女性以上に育休をとるのが難しく、女性には託児所が設置してある場所がまだ少ないため、保育園などに預けられる年齢まで、祖父や祖母に頼むか、ベビーシッターを雇わない限り、仕事をあきらめて子育てに集中するほか選択肢がないため、再就職という形になるのではないかと考えました。他にも、専業主婦の親を持つからこそ、働きたい意欲が出るなどの意見もディスカッションの中に見ました。いわく、私は親のあり方だけでなく、女性の志望する妻としてのありかたは社会によって変動するのではないかと考えます。

Ｄ→グループ討論では、女子大学生に再就職コースが多いのはなぜか？について話し合った。私の班で出た意見について述べていこうと思う。１つ目は子どもが生まれ、小学生ぐらいになると子育ても落ち着いてくるので少しでも家計の足しになるだろうと再就職をする人が多いのではないかという意見がでた。２つ目子どもができる前に就職していても、会社の育児休養手当てなどが不十分で、子どもができて辞めざるを得なくなる人もいるのではないかという意見だ。３つ目は、家にいても暇だからといった意見などが出た。
いったん就職するとやめたくないと思うだろう。しかしいまの社会では、子どもが風邪をひいても休めない。子育てと仕事の両立が厳しいといった理由でやめざるを得なくなる。再就職をするといっても正社員になることが難しく、パートやアルバイトがほとんどだろう。出産を機に仕事をやめなくてはいけないといったようにならないように、育児手当の充実、保育所の増加などの対策が必要であると思う。また、私たちの班では、お母さんが理想のライフコースかどうか？についても話し合った。４人中３人がそうではないと答えた。私もそうではないと答えた１人だ。私の母は専業主婦であり、まったく魅力を感じない。家でいるより外で活動したい。他の二人も私とまったく同じ意見だった。家で家事をするよりも働きたいといった思いが強いそうだ。最近は、専業主婦も減ってきており、女性も当たり前のように働いている。そういった時代背景も影響しているのではないかと思う。

Ｅ→ディスカッションでは、さまざまな意見を交わすことができとても身になりました。普段あまりないディスカッションの機会、しかも自分とは違う都会の学生さんとの意見交換は、とても新鮮で、出身や環境の違う人との会話というものはおもしろいなぁと感じました。最初は少しとまどったりぎこちなくなってしまったりしましたが、最終的にはみなスムーズに意見を出し合うことができたように思います。貴重な機会をありがとうございました。

Ｆ→子どもができたら子育てに専念するが、子育てのことも含めて将来的に不安であるため、再就職するということが考えられる。また現代では、なることが現実的に考えて難しい専業主婦へのあこがれから、子どもができたら仕事をやめるということも考えられる。

ほかにも、最初の就職では、結婚、子育て、または結婚しなかった場合など将来のことを考えて、お金をためること優先する。そして子どもができたら子育てに専念するため、仕事をやめ、次の就職先は子育てに関する制度などが整った子育てしやすい環境のある職場にするということも考えられる。

G→なぜ、再就職を希望する人が多いのはなぜかという点についてその理由を・経済的不安・再就職先は子育てしやすい環境・専業主婦に対する「あこがれ」・自分が使う分は自分で稼ぐ・働き続けたいが、産休・育休を取りにくい・待機児童の問題など、働き続けるためのサポートがない・結婚、妊娠したら「仕事どうする？」という話が出ること自体、「女が子育ての主体」という暗黙のルールがある、などを挙げる人が多かった。

H→　私は結婚する相手がしっかり稼いできてくれるのなら、専業主婦でいたいと思いました。でも子どもが大きくなり、時間ができるようになったら空いた時間パートになどしたいと思いました。専業主婦はあこがれでもあります。他の大学の学生はとてもしっかりしており、また自分の意見をどんどん言っていて少しビビッてしまいました。こういう場でしっかり意見を言えるのはかっこいいなと思いました。また人それぞれの考えなどたくさん聞けていい経験になりました。

Ｉ→　子育てのために退職するが、子どもがある程度成長したら時間に余裕が生まれ、その有効活用としてパートなどを始めるのではないか。自分の趣味を楽しむにも家計から支出するのは申し訳ないので自分で稼いで支出するのではないだろうか？その後両立して共働きをして両立するか、一度離職するか、専業主婦になるか意見を出し合ったところ、全員両立して共働きをしたいということであった。そのライフコースに親の影響はあるのかについてそれぞれが親についての意見をだしたが、親が専業主婦だからこそ両立したいという意見もあったが、親が両立しているからこそ、両立できると答えた人もありやはり親の影響はあるという結論になった。当日初めて出会って自己紹介することもなく話し合いましたが、すごく話やすい雰囲気で時間が短かったです。

K→　理由については、次のような意見が出ました。①夫の収入では不安定だから、働ける時に働く。　②育休などの制度がしっかりしているところに就職していつか職場に復帰する。しかし育休をとれる職場が少ない。　③女子大生は働くことへの憧れがある　④夫婦で家庭も仕事も両立されることを理想としている　④女子大生は授業などでライフコースについて考える機会が多い。私のグループでもほとんどの人が結婚、出産をした後に、再び働きたいという人が多かったです。理由は経済的な理由が多かったので、できれば専業主婦になりたいと思いながらも、働かなければいけないんじゃないかと思っているんじゃないかと思いました。

M→　再就職する気はないです。働く気はあり、就職したほうが１年で稼げる。しかし育休などがないと辞めざるをえなくて再就職が多いのかなという話になりました。私は個人的には、再就職の気はないのですが、パートナーの経済状況にもよると考え、自分は就職までしなくてもパートなどで勤めればいいのかと思います。私の母もパートをしているという理由もあります。今回、ほかの大学の方たちとディスカッションできたことがよかったと思います。ですが頭の回転が良すぎて私にはとても意見を出す勇気がわかなかったです。

N→　共働きをしていても、子育てや家事が両立できなくなるから一旦仕事をやめて、再就職を希望するのだと思う。そして再就職のときには、子どもがいても仕事を続けやすい仕事を求めて再就職先を探すのだと思う。共働きとするにしても子どもをあずけて仕事をできる環境が整っていない。やめて家に入らなければ子育てができない。女性が育児をするという暗黙のルールがまだある。再就職を希望する人が多いのは、子どもに手がかからなくなってから、自分の仕事ができる時間ができてから働く。

O→　再就職を選ぶ人が多いのは、子供の手が離れてからの時間の有効活用であると思います。大学の学費のために父だけでは、経済的に不安であるので子育てしやすい職場で再就職を希望するのだと思います。しかし再就職も逆にハイリスクな面があると思います。父の育児参加は難しいし、再就職先の制度は整っていないのではないでしょうか。また育児や教育を祖父母にまかせるとおじいちゃん子、おばあちゃん子になってしまいます。親戚との距離の調整も難しいです。専業主婦はあこがれだけれども、「激ヒマ」であるし「自分の小遣いぐらいは自分でどうにかしたい」という気持ちもあります。ずっと共働きとするには「待機児童」の問題もあるし、社会の暗黙のルールもあって「一度はやめざる得ない」という社会制度の不足が再就職のライフコースを選択させているのではないでしょうか。

S→　私のグループでは専業主婦になりたい人が３人いる中で、現実は専業主婦になれないという人が多かったです。経済的に困難、再就職できる環境にあるのか、ないのかでこの選択は異なると思います。専業主婦へのあこがれはあるけれども、時間を有効に使う、自分のために使うお金のために働く、社会制度が整っていないから整っているところで働きたいという意見が出ました。

Y→　グループ討論から出た意見は経済的な不安から子どもを産んでからもう一度就職する。また、はじめの就職はお金（給与）の良いところに勤めてお金を貯める。再就職先は、子どもがいても働ける環境の整っている会社、企業を選択するのではないか？私自身

の意見としても、経済面からすると再就職すると将来、企業年金がもらえるので主婦もいいけれども、外で働いて年金ももらえたほうがいいのではないかと思いました。お金に余裕のある家庭ならばいいのかもしれませんが、自分のスキルや経験のためには自分は将来再就職コースを選びたいと思いました。グループの中で出た意見は、「保育所の設備が不十分であるために『子どもを産んだら仕事はどうするの？』という社会の視線がある」、「自分の趣味のために自分のお金を貯める」、「政府の対策が必要」という意見が出た。

W→　専業主婦にあこがれている部分が少なからずあるから卒業してすぐはお金を貯められる仕事をして、一旦子どものために辞めて、子どもが大きくなってからの仕事は、子育てのしやすい環境の仕事に就くのではないかとグループで話合いました。グループ・ディスカッションでは時間が短くみなさんの意見が固まらないので、この件に関して自分の想定できる答えも少なくなかったため、もう一度どこかで考えなおせたらいいなと感じました。

**２）発表の感想**

（２）、（３）、（４）、（５）の調査報告を聞き、下記のような感想を得た。

Ａ→他大学の学生の方と討論をしてさまざまな意見を聞くことができてよかったです。
また自分自身も回答したアンケートの調査の分析結果を知ることができてよかったです

B→現時点では、自分は「生きづらさ」はまだ感じていないのですが、今回の発表を聞いてこれから先に女性として悩んでいかなくてはならないことがたくさん待っているんだろうなと気付かされました。

Ｄ→学術発表では、他の大学の学生と交流する楽しさを知った。またこのような機会があれば良いなと思った。

Ｆ→自分の卒業論文を考える上でとても参考になる講義でした。家族からのサポートが自分の意識形成に影響を与えていることは理解していましたが、サポートタイプや有無によって傾向があることを初めて知りました。私は充足型にあてはまり、考察で述べられたように親からの情緒的サポートを期待している部分があります。その期待を甘えととらえることもでき、今回の講義は女子大学生の現状を知ることができたのと同時に、これからの自分のライフスタイルを考え直す良い機会となりました。また、グループ・ディスカッションはとてもおもしろかったです。学校は違いますが、同じように女子大学に通っているのに、少し私たちと考えが違っていて新鮮でした。他のことについても話し合ってみたいと思いました。

Ｇ→同じような研究テーマに対し、様々な角度からの研究を同時に学ぶのは初めてで、と

ても勉強になった。同じ調査票から質問項目の取り上げ方によって様々な因果関係が結びついていく過程はとてもおもしろかった。私自身家族と過ごしている時間は年々少なくなっているように感じていたが、山下先生・大石先生の研究から、やはり家族資本に影響されている面は大きいと感じた。M字型就労についてのディスカッションでは、希望のライフコースを実現したいが、社会制度により困難だから諦めてM字型を選んでいるという意見が多く出ていた。女性が同じ仕事をずっと続けてキャリアを積んでいくには、何かを犠牲にしなければいけない現実があり、若者の考えにも大きく影響していると分かった。

H→家族資本とキャリア・デザインや「生きづらさ」について発表を聞いて現在の大学生の考えを知ることができました。印象に残ったのは将来に向けた活動への意欲に家族からの情緒的サポートを期待していることがわかったけれども、私もいつも親に助けられているなと思いました。

0→今回発表に使われた調査集計の仕方が、少し授業でやったことがあるので、こういうところで使うのだなと納得しました。奨学金の返済についてはあくまでも「借金」ではなく、「奨学生」となっているので自覚は持ちづらいです。また返済については一度だけビデオを見せられただけで、詳しくは自分で調べなければならない。しかし最終学歴が大卒より高卒のほうが就職のときに困るのではないかという心配もあります。自分のことでも手一杯なので、子どもや親戚関係などを考えている場合ではないと思いました。

S→「生きづらさ」、「家族資本」、「キャリア・デザイン」というテーマはすごく私たちに身近なものであったので興味、関心を持てる内容でした。おもしろく発表を聞くことができました。大学の講義で聞く話と今回の話で内容がちゃんと関連していて調査結果まであったので納得出来た話でよかったです。今までこのような講義がなかった中で、他の大学の先生方、学生と一緒に発表を聞くということは画期的でいろいろな意見などが聞けて私自身たくさん学ぶことがあったし、刺激も受けたのでいい機会になりました。
Ｅ→自分と同じ女性、しかも女子大学生を対象とした研究ということで、自分自身と照らし合わせながら考えていくことができ、とても興味深かったです。確かに、と共感できる面も、自分の思っているものとは違っていて意外に思う面もあり、自分と同じ立場、年代の人たちの実態というものを知ることができたことは、自分自身のライフコースについて改めて考えてみるきっかけになりました。また私自身も授業の一環でアンケート調査を利用した研究を進めているところなので、そうした研究の進め方として非常に勉強になりました。とくに「気持ちや身体の状態」についての質問項目が興味深かったです。一見何の関係があるのかと思ってしまいますが、研究の切り口や見方はたくさんあること、研究の面白みを再認識し、自身の研究活動について振り返るきっかけにもなりました。

Y→金銭的援助よりも精神的援助がほしい人が多いのではないかと感じた。そう考えるとやはり日本では家族を大切にしているのではと思う。自立度は、家庭の中ではなく、家庭の外（学校）などで影響されるものではないだろうか？子どもにとって「家族」は安心したい場所と考えている。

### ３）まとめ

Gross（1993）は、成人学習者にとても効果的ないくつかの方法論を示した。バズグループ（作業志向）、ロールプレイ、そしてもっとも重要なディスカッショングループなどの方法論である。ディスカッショングループの参加者のサイズは 3 人から 15 人までとする。この小さなグループのディスカッションは先生と生徒が知識を分け合い、学習過程に参加することができる。Vella (1994)は、「小さなグループは、大きなグループ設定でははっきりと話すことに気が進まない人にとって安心感を醸し出す」という。小さなグループはすぐに学習チームとなり、協働し支えあう。その結果、そのグループは建設的になるという。

ここでのディスカッショングループは、調査結果の発表を聞き先生と学生が知識をわけあい共に学習過程参加した様子が上記の記述からうかがえる。学修過程で調査報告者とグループ討論参加者が学習チームとなり、協働的し支えあっていることがリアクションペーパーから読み取れる。

### 引用・参考文献

Arcus. M.E .&Thomas ,J.(1993) The nature and practice of family life education. In M.E. Arcus,J.D.Schvaneveldt, & J.J.Moss(Eds.), Handbook of family life education(Vol.2,pp. 1-32) Newbury Park, CA: Sage.

Mace,D.(1970). The long long trail from information=giving to behavioral change. Family Relations 30,599-606.

Gross, P.(1985). On family life education : for family life education(2nd revised ed.) Montreal< Quebee, Canada:Concordia University Centre for Human Relations and Community Studies.

開内文乃, 2010,「婚活ブームの二つの波――ロマンティック・ラブの終焉――」山田昌弘編『「婚活」現象の社会学』東洋経済新報社, 121-159

Vella,J.(1994) Learning to listen, learning to tearch: The power of dialogue in educating adults, San Francisco:Jossey=Bass.

山田昌弘　2013「「女性労働の家族依存モデルの限界」)、労働政策フォーラム　2013 年 7 月 13 日、

## おわりに

大学生をめぐる生活環境は近年激変をしている。特に経済的資源を家族資本に頼る日本においては奨学金返済の問題は大きな社会問題となっている。最近では奨学金の返済が滞り、自己破産を申請したケースまで報告された。将来設計の見通しが立たないまま学生時代に多額の負債を背負ってしまうことに大きな問題がある。政府では貸与奨学金の増加や返済システムの再考が提案されている。本調査報告書は、大学生の生活環境に置ける様々な資源を把握し、その資源が大学生の将来設計や大学時代の自立にどのようにかかわるかを、主として大学生を中心として調査をした結果をまとめた報告書である。

調査をする前に、大学生を支援する大学職員の方々にインタビューをして大学生活や就職活動の実態を聞かせていただき、プレリサーチを試みた。多くの大学職員の方に心からお礼を申し上げる。また調査票を配布に協力していただいた方々、調査票に答えてくださった方々には、長い時間をさいていただき協力をしていただいた。

本調査では調査票に答えてくださった学生へ調査報告をしてリアクションペーパーを一部の方々からいただいた。このリアクションペーパーによって、調査を企画した側では調査結果の分析がさらに深まったが、それと同時に被調査者の側も調査を基にしたディスカッションを通じて多く意見を知ることができたという感想が多かった。調査結果が有効にフィードバックすることができたと思う。

**（本調査の助成）**

**研究課題**　「教育期から労働器への移行段階における若年女性の自立と家族資本―日米比較調査―」

**補助期間**　「平成 23 年度から平成 26 年度」

**補助金額**　直接経費合計　3900,000 円　間接経費　1,170,000 円

**研究種目**　（基盤研究 C）　課題番号　２３５００８９８

**（本調査の研究成果）**

以下は本調査のもとにまとめた研究の成果である。

**（論文）**

竹田美知、橋長真紀子、Tahira K. Hira 2013,　「アイオワ州立大学におけるパーソナルファイナンス・カウンセリング」　神戸松蔭女子学院大学研究紀要人間科学部編　NO２，38－56

竹田美知、山下美紀、大石美佳、正保正恵 2015,　「女子大学生の生活環境と将来設計」　神戸松蔭女子学院大学研究紀要人間科学部編　NO４，(3 月発行予定)

正保正恵、竹田美知、山下美紀、大石美佳、2015,　　「公立大学生の奨学金返済不安にか

かわる要因分析―家族関係資源を補完する大学の新たな役割―」福山市立大学教育学部研究紀要　第3巻　（2月発行予定）

**（発表）**

Michi Takeda, Masae Shoho, Miki Yamashita, Mika Oishi, Importance of establishing career and financial counseling center on campuses of women’colleges in Japan（IFHE World Congress 2012 in Melbourne Australia）

大石美佳、山下美紀、正保正恵、竹田美知、2014　「女子大学生の家族資本とキャリアデザイン」日本家政学会第66回大会　ポスターセッション

山下美紀、大石美佳、正保正恵、竹田美知、2014　「女子大学生の家族資本と『生きづらさ』」日本家政学会第66回大会　ポスターセッション

正保正恵、竹田美知、山下美紀、大石美佳　2014　「大学生の奨学金返済不安にかかわる要因分析―家族関係資源を補完する大学の役割―」大学教育学会第36回大会　口頭発表部会⑥学生支援・学習支援

# 大学生の生活環境と将来設計についての調査

2012 年　11 月

私たちは、大学生を取り巻く経済状況と将来設計について研究しています。このアンケートは、その研究の一環として作成されたもので、大学生のみなさんが、日頃、どのような生活をしているのか、また、自分の生活や将来ついてどのように感じ、どんな思いをいだいているのかおたずねするものです。このアンケートによって、みなさんの現在の生活に対する思いや将来の生活に対する希望をお聞かせいただき、みなさんの生活をよりよくするための条件を明らかにしてきたいと考えています。

下記の調査倫理に関する注意事項をお読みいただいた上で、ご協力いただける方は、つぎのページにお進みください。なお、アンケートへの記入をもって本調査への同意をいただいたものとさせていただきます。ご不明な点や質問等がありましたら、下記あてにご連絡ください。

調査の主旨をご理解いただき、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※本調査は平成 23 年度科学研究費（C）の助成研究です。

## 調査倫理に関する注意事項

1. この調査への参加は強制されるものではありません。回答するかどうかはあなたの意志で自由に決めることができます。
2. 答えたくない質問がある場合は、その質問を飛ばして次の質問に移ってください。
3. 回答を途中でやめたくなった場合は、すぐにやめていただいて構いません。
4. 回答しなかったり、回答を途中でやめたりしても、いかなる不利益も生じません。
5. 調査の結果は、研究目的のみに使用し、研究結果は専門の学会や学術雑誌に公表される場合があります。
6. 結果は統計的に処理します。みなさんの回答をそのままの形で公開することはありませんし、個人が特定されることもありません。
7. 個人情報の機密保持は厳守します。調査用紙は、鍵付きロッカーに保管するなど厳重に管理します。また、分析終了後は速やかにシュレッダーなどを用いて廃棄処分します。

研究代表者　神戸松蔭女子学院大学　竹田　美知
研究分担者　福山市立大学　正保　正惠
ノートルダム清心女子大学　山下　美紀
鎌倉女子大学　大石　美佳

［ 記入にあたってのお願い ］
・回答は番号を〇でかこむか、（　　）の中に数字やことばを記入してください。
・自分の思ったとおりに答えてください。

はじめに、あなた自身とご家族のことについて教えて下さい。ご両親あるいはどちらかが不在の方は、答えられる範囲でお答えください。

## Ⅰ　あなたご自身のこと

問１　（　　）大学　（　　）学部　（　　）学科
（　　）年生　（　　）歳

問２　いまの居住形態について、あてはまる番号に○をつけてください。

1．自宅通学　2．寮　3．アパートなど　4．食事付き下宿　5．その他（　　）

問３　あなたの家族構成について、あてはまる人すべてに○をつけてください。
きょうだいがいる場合は、（　　）に人数を記入してください。

1．父　2.母　3.きょうだい（　　）人　4.祖父　5.祖母
6.その他（　　）

問４　お父さんとお母さんの最終学歴について、あてはまる番号を１つずつ選んで（　　）に記入して下さい。

［1．中学校　2．高等学校　3．短大／高専　4．専門学校　5．大学　6．大学院　7．その他］

お父さん（　　）　お母さん（　　）

問５　お母さんの職業経歴について、いちばん近いパタンの番号に○をつけてください。

1．結婚前から現在まで仕事を続けている
2．結婚・出産を機に就業を中断し、子どもがある程度大きくなってから再びパートで働いている。
3．結婚・出産を機に就業を中断し、子どもがある程度大きくなってから再び正社員で働いている。
4．結婚・出産を機に仕事を退職し、その後は仕事を持っていない
5．結婚前から現在まで専業主婦である
6．その他（　　）

## Ⅱ　経済状況とアルバイトについて

問６　あなたの家族の家計について、いちばん近いと思う番号に○をつけてください。

1．ゆとりがある　2．どちらかといえばゆとりがある
3．どちらかといえば苦しい　4．苦しい

問７　あなたが家からもらうお金（家族からの金銭的援助）について、いちばん近いと思う番号に○をつけてください。

1．充分足りている　2．若干足りない
3．まったく足りない　4．受けていない

→2．3．4．に○をつけた方にお尋ねします。

Ｓ７－1　生活費の不足分は、何で補っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください

1．アルバイト　2．奨学金　3．親類など家族以外からの援助　4．その他（　　）

問８　あなたの大学にかかる経費の負担者について、あてはまる番号に○をつけてください。

1．おもに保護者　　2．保護者と自分の負担は半分ずつ　　3．おもに自分
4．その他（　　）

問９　アルバイトの状況についてお尋ねします。あなたは現在アルバイトをしていますか。

1．はい　　2．いいえ(→問 10 へお進みください。)

「1.はい」と答えた方にお尋ねします。

S9-1　アルバイトの目的について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．学費　　2．住居費　　3．生活費　　4．小遣い　　5．友人づくり　　6．社会勉強
7．その他（　　）

S9－2　アルバイトの平均収入（月収）は、平均するとだいたいどれぐらいですか。

1．3 万円未満　　2．3 万円以上 5 万以下　　3．5 万円以上 7 万円未満
4．7 万円以上 10 万円以下　　5．10 万円以上

問 10　奨学金の状況について、あてはまる番号にすべてに○をつけてください。

1．日本学生支援機構の奨学金（第一種・第二種）をもらっている
2．日本学生支援機構以外の奨学金をもらっている
3．奨学金を申請したがもらえなかった
4．奨学金をもらいたいが申請しなかった
5．奨学金をもらう必要性を感じなかった
6．以前は奨学金をもらっていたが、今はもらっていない
7．その他（　　）

問 11　親が借りている教育ローンの状況について、あてはまる番号に○をつけてください。

1．国の教育ローン（日本政策金融公庫・郵貯貸付・年金教育貸付など）を借りている
2．民間金融機関からローンを借りている
3．大学から教育ローンを借りている
4．どこからも教育ローンを借りていない
5．わからない

問 12　将来、返済が必要な奨学金や教育ローンを受給されている（過去に受給していた）方にお尋ねします。

奨学金や教育ローンの返済についての不安はありますか。あなたのお気持ちにもっとも近い番号に○をつけてください。

1．大いに不安である　　2．多少不安である　　3．あまり不安はない　　4．まったく不安はない

問 13　将来の暮らし向きの見通しについてお尋ねします。これから先のあなたの暮らし向きはどうなると思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1．ゆとりがある　　2．どちらかといえばゆとりがある
3．どちらかといえば苦しい　　4．苦しい

あなたの家族との関係について教えてください。

Ⅲ　家族関係について

問 14　あなたと家族との関係について尋ねた①～⑪の項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまりあて<br>はまらない | まったくあて<br>はまらない |
|---|---|---|---|---|
| ①家族から、卒業後は就職するようにいわれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②家族から、将来結婚するようにいわれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③家族から、将来子どもを産むようにいわれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④家族から、将来面倒をみてほしいといわれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤困ったことがあっても、家族には話せないことが多い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥家族は自分の気持ちをよくわかってくれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦自分のことで家族をがっかりさせたくない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧家族は、女も外に出て働くべきだと考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨家族は、女は結婚し、子どもを産むべきだと考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩家族は、女は結婚したら家事や育児をするべきだと考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪家族から、早く家を出て自立するようにいわれる | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 15　あなたの家の役割分担は次のどれに一番近いですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. お父さんが仕事をし、お母さんが家事育児を行う
2. お父さんお母さんともに仕事をし、おもにお母さんが家事育児を行う
3. お父さんお母さんともに仕事をし、お父さん、お母さんともに家事育児も行う
4. お父さんお母さんともに仕事をし、おもにあなたや祖父母など他の家族員が家事育児を行う
5. その他（　　）

あなたの生活に対する意識や将来についての考えを教えてください。

Ⅳ将来設計について

問 16　つぎにあげた①～⑫のことがらについて、あてはまる番号に○をつけてください。

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまりあて<br>はまらない | まったくあて<br>はまらない |
|---|---|---|---|---|
| ①　日常生活全般について満足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②　いまの自分は経済的に自立している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③　いまの自分は精神的に自立している | 1 | 2 | 3 | 4 |

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまりあて<br>はまらない | まったくあて<br>はまらない |
|---|---|---|---|---|
| ④ 自分にはかなえたい夢や将来の希望がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 早く、親から離れて生活したい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 家庭生活に満足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 学校生活に満足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ 同性との交友関係に満足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 異性との交友関係に満足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 就職活動に力を入れている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪ 結婚のための活動（婚活）に力を入れている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑫ 将来に向けた資格・技能の習得に力を入れている | 1 | 2 | 3 | 4 |

**問 17**　あなたの理想のライフコースとして、あなたの考えにいちばん近い番号に○をつけてください。

1. 結婚せず、仕事を続ける
2. 結婚するが、子どもはもたず、仕事を続ける
3. 結婚し、子どもをもつが、仕事も続ける
4. 結婚し、子どもをもつが、結婚あるいは出産を機にいったん退職し、子育て後ふたたび仕事をもつ
5. 結婚し、子どもをもち、結婚あるいは出産を機に退職し、その後は仕事を持たない
6. 結婚前から、ずっと仕事をもたない

**問 18**　将来家庭をもつと仮定したとき、あなたの理想とする夫婦の役割分担のありかたとして、一番近いと思うものに○をつけてください。

1. 夫が仕事をし、妻が家事育児を行う
2. 夫、妻ともに仕事をし、おもに妻が家事育児を行う
3. 夫、妻ともに仕事をし、夫、妻ともに家事育児も行う
4. 夫、妻ともに仕事をし、おもに祖父母など他の家族員が家事育児を行う
5. その他（　　）

**問 19**　大学卒業後のあなたの進路について、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 就職する　　2. 大学院に進学する　　3. 専門学校に進学する　　4. 就職も進学もしない
5. まだ決めていない

**問 20**　あなたは就職先として①～⑦のことをどの程度重視しますか。あてはまる番号に○をつけてください。

| | とても<br>重視する | まあ<br>重視する | あまり<br>重視しない | まったく<br>重視しない |
|---|---|---|---|---|
| ① 自分の能力や個性が生かせること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 大学時代身につけた知識や技術が生かせること | 1 | 2 | 3 | 4 |

| | とても<br>重視する | まあ<br>重視する | あまり<br>重視しない | まったく<br>重視しない |
|---|---|---|---|---|
| ③　給料が高いこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④　休みが多いこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤　知名度が高い会社であること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥　親元から近いこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦　結婚しても働き続けられること | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧　福利厚生が整っていること | 1 | 2 | 3 | 4 |

**Ｖあなたの最近の状況について**

**問 21**　あなたが、最近、いちばん悩んでいることは何ですか。ひとつに○をつけてください。

1. 自分の容姿　2. 勉学　3. 将来の進路や就職　4. 自分の性格や能力　5. 学費や生活費
6. 友人関係　7. 恋愛関係　8. 家族関係　9. その他（　　）
10. とくにない

**S21－1**　あなたがその悩みをもっともよく相談する相手は誰ですか。ひとつに○をつけてください。

1. 同性の友だち　2. 異性の友だち　3. 恋人　4. 親　5. きょうだい　6. 祖父母
7. 学校の先生　8. サークルの人　9. アルバイト先の人　10. ネット上のブログ、プロフなど
11. 就職指導部や学生部など大学の相談機関　12. カウンセラー　13. その他（　　）
14. だれにも相談しない

**問 22**　あなたの大学生活についてお尋ねします。①～④の項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

| | 満足 | だいたい<br>満足 | やや<br>不満 | 不満 |
|---|---|---|---|---|
| ①　学生生活のサポートや支援体制 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②アドバイザーなどの教員との関係 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③就職支援やサポート体制 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④大学の周辺の環境 | 1 | 2 | 3 | 4 |

**さいごに、あなたの現在の気持ちやからだの状態について教えてください。**

**問 23**　つぎの①～⑧に示したことがらについて、あなたの気持ちにいちばん近いと思う番号に○をつけてください

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまり<br>あてはまらない | まったく<br>あてはまらない |
|---|---|---|---|---|
| ①生きているのはつらい」とか、「消えてしまいたい」とか思うことがある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②どこにも自分の居場所がないような気がする | 1 | 2 | 3 | 4 |

| | とても<br>あてはまる | だいたい<br>あてはまる | あまり<br>あてはまらない | まったく<br>あてはまらない |
|---|---|---|---|---|
| ③自分なんか、この世に生まれてこなければ良かったと思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④いまの生活はつらいことのほうが多い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤いろんなプレッシャーに、押しつぶされるような気持ちになる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ありのままの自分を、誰も認めてくれない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦これ以上、何をがんばればいいのだと、思うことがある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧将来に、まったく希望が持てない | 1 | 2 | 3 | 4 |

**問 24** つぎの特徴のおのおのについて、あなた自身にどの程度あてはまるかをお答えください。他からどう見られているかではなく、あなた自身がどのように思っているかをありのままお答えください。

| | あてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | ややあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|
| ① 少なくとも人並みには、価値のある人間である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② いろいろなよい素質を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 敗北者だと思うことがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 物事を人並みにはうまくやれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ 自分には自慢できるところがあまりない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ 自分に対して肯定的である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ だいたいにおいて、自分に満足している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧ もっと自分自身を尊敬できるようになりたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑨ 自分は全くだめな人間だと思うことがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑩ 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問 25** さいごに、この 1 週間のあなたのからだや心の状態についてお尋ねします。

| | まったくなかった | 週に 1 日～2 日 | 週に 3 日～4 日 | ほとんど毎日 |
|---|---|---|---|---|
| ①ふだんは何でもないことが煩わしいと感じたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②家族や友人から励ましてもらっても気分が晴れないこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③憂鬱だと感じたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |

| | まったくなかった | 週に1日～2日 | 週に3日～4日 | ほとんど毎日 |
|---|---|---|---|---|
| ④物事に集中できなかったこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤食欲が落ちたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥何をするのも面倒と感じたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦何か恐ろしい気がしたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧なかなか眠れなかったこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ふだんより口数がすくなったこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩一人ぼっちで寂しいと感じたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪「毎日が楽しい」と感じたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑫悲しいと感じたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |

以上で、質問はおわりです。長時間にわたって、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。記入もれがないか、もう一度確かめてから、アンケート用紙を封筒に入れてください。

このアンケートの内容について、ご意見やご感想などありましたら、お聞かせください。

**ご協力ありがとうございました**